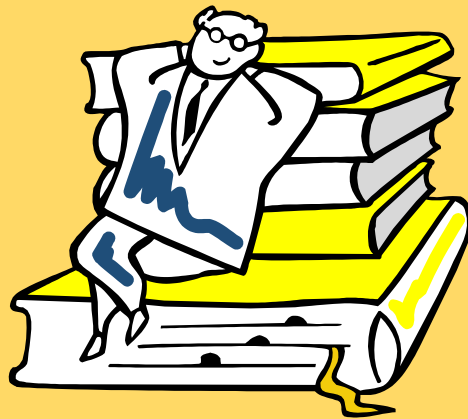


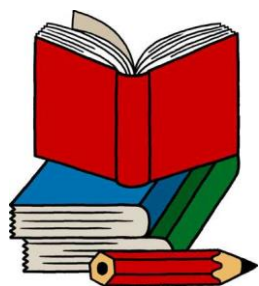
2016年度文化庁委託
「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

「使える」日本語を学ぶ！

活動事例集2016



公益財団法人 愛知県国際交流協会



はじめに

愛知県は、東京都に次いで全国で2番目に外国人住民が多い都道府県です(2016年6月末現在)。しかも、永住者、特別永住者、定住者、日本人の配偶者等といった、日本に長く住むと考えられる住民が多く、さらにその子どもや帰化した方など、日本国籍ではあるけれど、ルーツは外国にあるという方も増えています。そして、今後も様々な背景をもつ外国人住民が増えていくことが予想されています。

そうした方たちが日本社会の一員として、安心して豊かな生活をしていくためには様々な課題がありますが、中でも「ことば」の問題は重要です。愛知県内では、各地で、ボランティアによる150以上の日本語教室が開催され、多くの外国人住民が学んでいます。日本で暮らす外国人住民が、日本語ができないために不自由な生活を余儀なくされることがないように、外国人住民に寄り添い、手助けをすることは、地域の日本語教室だからこそできることではないでしょうか。日本語というツールを使って、「伝えることができた!」「やりたいことができた!」といったように、「できる」ことがたくさんになることが、外国人が日本で快適に生活する上で必要なことだと考えています。

当協会では、外国人が日本語を使ってできることを増やす方法のひとつとして、「行動・体験型教室活動」が有効だと考え、今年度も「行動・体験型プログラム研修」を実施しました。この「行動・体験型教室活動」は、教室という閉じられた空間だけでなく、地域に働きかけて、地域の住民の方と一緒にやって行う活動です。地域ぐるみで取り組むことによって、外国人が「できる!」ことを増やすだけでなく、地域の日本語教室が日本人住民と外国人住民とが繋がる場となっていくと期待しています。

本書は、当協会が実施した「行動・体験型プログラム研修」の中で、参加者が実践した「行動・体験型教室活動」の内容を実践者自身がまとめたものです。「行動・体験型」を実践することで、外国人も日本人も関係なく、みんなにとっての暮らしやすい地域づくりにつながるのでは、と期待しています。

本書に掲載している活動はあくまで事例であり、「行動・体験型」は必ずしもこうしなければならない、というものではありませんが、本書を参考にいただき、「行動・体験型教室活動」を実践していただければ、とてもうれしく思います。

平成29年2月

公益財団法人 愛知県国際交流協会



はじめに

本書のつかいかた

行動・体験型プログラム研修を実施

● 第 1 章 行動・体験型教室活動！？

「使える」日本語とは？……………	2
「行動・体験型教室活動」のポイント……………	3
よくある疑問にお答えします……………	4

● 第 2 章 実践してみました

1. ごみの分別について学ぼう……………	6
2. 母国にいる親しい人に郵便物を送ろう……………	14
3. 食品表示の見方を学ぼう……………	22
4. 自転車のルールを知ろう……………	30
5. 人を助ける……………	38
6. AEDを使えるようになろう……………	46
7. 地震について知ろう……………	52
8. 地震に備える……………	58
9. 家庭の防災……………	66
10. 地震から身を守ろう……………	74
★実践教室一覧……………	82

● 参考情報

愛知県の外国人住民……………	84
教室活動等に役立つウェブサイト……………	88

● 第1章 行動・体験型教室活動！？

「行動・体験型教室活動」の概要、ポイントについて説明しています。
学習者の状況やニーズ、日本語レベルなどにあわせて、教室活動の流れを考えてみましょう。

● 第2章 実践してみました

10の活動事例を紹介しています。1つの事例は、6～8ページでまとめてあります。事例毎に、実際に実践した内容について、うまくいったこともいかなかったことも、実際に行ったとおりに掲載しています。とりあえず掲載してあるとおりやってみるのもいいですし、「ここはもっとこうした方が…」とアレンジするのも、あるいは事例を参考に他のテーマで挑戦してみるのもいいでしょう。

続いて、活動を実践する前に作成した「活動案」と実践後成果発表のプレゼンテーションをするときに作成した「ポスター」を掲載しています。最初に作成した活動案（活動計画）を基に、研修の中でいろいろ練り込んでから実践しているので、活動案は実際に実践した内容と違っている部分もあります。

テーマ

プログラムを実践した教室の概要

プログラムの参加者

1.ごみの分別について学ぼう

参加学習者：23名（中国8名、ベトナム5名、台湾、韓国、フィリピン、タイ、アメリカ、イギリス、シンガポール、メキシコ、カナダ、コロンビア、各1名）
ボランティア：11名
外部協力者：1名（名古屋市環境学習センター「エコノミッシュなごや」環境教育統括担当）

教室：あいち国際プラザにほん語教室
教室開催日：土曜日 10：30～12：00
学習者の国籍：ベトナム、中国、タイ、フィリピン
レベル：入門から初級・中級・上級

学習者の状況

☐ 名古屋市または近郊在住で、ごみの分別は確知。
☒ 家族に任せていて、経験や知識がない人もいます。

学習者の声

☐ ごみの分別はむずかしい。
☐ 袋の違いがわからない。
☐ 「リサイクル」って何ですか？

目 標

ごみの分別を理解し、地域のルールに従ったごみの出し方が実践できる。

活動の流れ

1日目：10月15日(土) 10：30～12：00 (90分)		
活動1	10分	「ごみの分別」に関心を持つ
活動2	40分	地域による違いや経験を話す
活動3	20分	写真を見て、ごみの話をする
確認1	20分	ふりかえりと次回の説明
2日目：10月22日(土) 10：30～12：15 (105分)		
活動4	50分	目的地まで移動する
活動5	30分	専門家の話を聞く
確認2	25分	ふりかえり
3日目：10月29日(土) 10：30～12：00 (90分)		
活動6	30分	1・2回目の活動をふりかえる
活動7	20分	「ごみの分別」をやってみる
活動8	20分	分別に関するクイズで確認する
確認3	20分	ふりかえり

事前の準備・下調べ

- 名古屋市環境学習センターに見学受入を依頼し、打合せの際に動線に向く。
- 当日のごみの集積場や掲示板、リサイクルボックスの写真を持って教材を作成する。
- 分りゲームやクイズの教材を作成する。
- 活動情報/フレット「なごやの資源・ごみ分別ガイド」（8ヶ国語対応）を取り寄せる。
- 「ごみの分別区分見本表（保存版）」を参考とし、内容を確認する。

学習者の状況や声を踏まえて目標を設定した上で、プログラムのテーマを決定しました。

プログラム全体の流れです。

活動の中で使う教材やワークシートの作成などに加え、活動前に準備したことも挙げています。

活動の「ふりかえり」です。ボランティアで行ったプログラム全体のふりかえりと区別するために「確認」ということばを使っています。学習者とボランティアと一緒に活動をふりかえり、そこで出てきた日本語を確認する時間です。

ここが重要! 日本で生活する上で使える、「行動・体験型」ならではの日本語がたくさん出てきました。



学習者からこんな日本語がでました

活動の中で、学習者から発せられた日本語を拾いました。



次のことばを説明しました

テーマに関連して説明した語彙等(全てを覚える必要はありませんが、活動を進める中で、説明したことばです。)



こんな日本語を伝えました

活動の中で、ボランティアや外部協力者が学習者に伝えたことを挙げました。



ここがポイント

ボランティアが配慮するといいポイントや大切なポイントです。

実践活動

活動1 ごみの分別に関心を持つ

1. ごみ袋や実物のごみで分別の説明を聞き取った。
2. 画像も、プロジェクトの画面で、16種類ごみの分別名を覚えた。

活動2 地域による違いや経験を話す

いま住んでいる所や自分の国でのごみはいつ、どうやって出すか、ごみ捨てた経験などをグループで話し合、発表しました。

学習者からこんな日本語がでました

- 分別は何ですか? / ぜんぜんたくさんある、知りませんでした。
- こんな日本語を伝えました
○ごみを分けて出します。
○分別は住んでいるところで違います。
- 次のことばを説明しました
ごみの分別、可燃ごみ・不燃ごみ
資源ごみ・資源物、空きびん、
空きかん、ペットボトル
- 学習者からこんな日本語がでました
○ごみの分別、したことがありません。
○ごみは道路の上に出します。
○家の前に出します。
○アメリカ、大きいごみ箱。
- 次のことばを説明しました
ごみ置き場・すて場・資源ごみ
どうやって・毎週・一回

用意したもの
ごみ、ごみ袋、分別名記載用紙、プロジェクト

用意したもの
ふりかえりシート

プログラムの詳細です。

活動中、学習者、ボランティアや地域の方たちから発せられた日本語を挙げています。

ふりかえり

活動を通しての感想を発表してもらい、ふりかえりシートに書いたことばや文、思ったことを記入しました。

学習者からこんな日本語がでました

- ごみを分けるのは大変ですけど頑張ります。
- 先週に勉強したことをまたやり直してくれて、忘れたことは思い出して、きくと覚えると思います。ここで勉強したことはとても意味があります。私はまた後輩に教えるつもりです。将来のために。
- ごみを分別しようと思いましたが、自分の箱も守りたいと思います。

ここがポイント
ごみの分別について、実物・ポイント・絵カード・クイズなど何回も繰り返し学んだことが、分別の理解の定着にも、日本語の学習にも、とても効果的だったと思います。1日だけの学習者にも戸惑いなく参加できたのではないのでしょうか。

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切と思ったこと

- 資料等の準備や、協力者や教室内の他のボランティアとの打合せ時間を確保するのが大変だった。
- 参加人数が多く、3回続けて出席された学習者もかなりいて、同じ一連の一定量という積み重ねのプログラムを作ったかよかった。
- 3回目、1回目と2回目の写真を見てふりかえりをしたのがとても良かった。
- 説明の時は少しずつ区切って質問の時間を取っておくと、理解できているのが確認しやすい。
- ボランティアからは入門～初級の人にはついていけない内容だという意見が多かったが、学習者の感想は逆であったというものが多かった。

大切だったこと

- 協力者や、ボランティアの他のボランティアとの時間の打ち合わせ。
- 内容を簡単にしすぎず、日本人でも覚えて楽しめる内容にする。
- 皆で出かけるなど、普段の教室ではない一体感があって、楽しく学習できた。

プログラムを実践して、ボランティアが大切だったポイントです。

プログラムを実施したボランティア自身のふりかえりです。活動後毎回、ボランティアだけで活動をふりかえる時間をとりました。

● 参考情報

愛知県内の外国人の状況と特徴を地図やグラフで示しています。外国人の状況は、市町村ごとに異なっています。活動している日本語教室がある地域は、どのような外国人が住んでいるのか、どのような活動が期待されているのか、考える参考にしてください。教室活動などに参考となりそうなWebサイトも掲載しています。

行動・体験型プログラム研修を実施

(公財)愛知県国際交流協会では、2014・2015年度に引き続き、2016年度も行動・体験型プログラム研修を実施しました。6月から11月までの6ヶ月間にわたり、県内10教室、35人のボランティアが「行動・体験型教室活動」の活動案を作成し、実践しました。

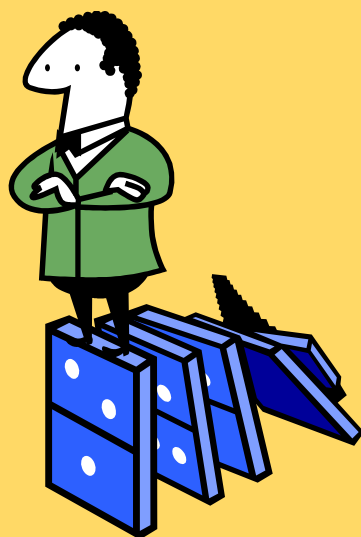
「行動・体験型教室活動」とはどんな活動なのかを理解し体感したことももちろん大切ですが、この研修を通して、他の教室を見学したり、同じ教室のボランティア同士でじっくり話し合ったりすることで、自分自身や教室としての活動をふりかえるきっかけになったことが、今後のよりよい活動につながっていくものと期待しています。

回	月日	タイトル	内容
1	6/25 (土)	オリエンテーション 「行動・体験型」の活動とは?	講座の全体像を理解し、受講及び実践などへの心構えを確認する。 防災(地震)をテーマとした活動を例に、「行動・体験型」の活動について理解する。活動テーマの選び方を理解し次回につなげる。
2	7/2 (土)	活動のつくり方 モデル教室見学のオリエンテーション	活動テーマからどのような手順を経て活動をつくるか、「行動・体験型」について、その具体的な活動の流れと素材・教材について理解する。 日本語支援活動における役割と着目点を理解する。
3	7月	モデル教室見学とふりかえり	モデル教室に参加し、ボランティア(対話パートナー)の役割と進行役の役割を理解する。また、自身の実践に向けて必要な事柄について理解する。 <テーマ> ○「交通安全」について学ぼう! ○ あいち国際プラザを利用してみよう!
4	7/30 (土)	実践活動計画を立てる	モデル教室見学をふりかえり、準備する事柄の手順や素材・教材について、また、活動の効果をどう評価するか考える。そして、第2回で学んだことをもとに実践可能な活動案をつくる。
5	8/20 (土)	実践活動計画を共有しよう	各自(各教室)が持ち寄った活動案、素材・教材を共有・検討する。
6	9月～ 10月	実践活動の実施と見学 ※	それぞれの活動現場において活動案をもとに実際に活動し、活動後に見学者とともにふりかえりを行う。 また、他の実践現場を見学する。
7	11/5 (土)	実践活動のふりかえり	提出した活動事例集をもとに実践した活動をふりかえり、文化庁の「カリキュラム案」の考え方と「行動・体験型」の活動について理解を深める。
8	11/19 (土)	実践活動の発表 講座全体のふりかえり	ポスター発表を通して実践活動を共有・検討し、よりよい活動を目指す。 講座全体をふりかえり、今後の活動に向けた実践について考える。

※この冊子では、研修第6回で実践した実践活動を事例集としてまとめています。

第 1 章

行動・体験型教室活動！？



「使える」日本語とは？

● 何のために日本語を学ぶのだろう？

今、愛知県には21万7,465人の外国人が暮らしています（2016年6月末現在）。これは、東京に次いで全国で2番目の数です。最近では、日本に帰化する外国人も増えているので、「外国につながりを持つ住民」はそれ以上にいると考えられ、国籍も年齢も背景も異なる様々な外国人住民が、年々増えています。そうした方たちが現在、愛知県内で、ボランティアにより運営される150以上もの日本語教室で日本語を学んでいます。

では、その方たちは何のために日本語を学んでいるのでしょうか？ 文化庁のことは借りるなら、

「言語・文化の相互尊重を前提としながら、日本語で意思疎通を図り生活できるようになること」

が目的であり、

- 日本語を使って、健康かつ安全に生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、自立した生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、相互理解を図り、社会の一員として生活を送ることができるようにすること
- 日本語を使って、文化的な生活を送ることができるようにすること

が目標なのです。

つまり、外国人が日本語教室に通う最終目標は「日本語」という語学の習得ではなく、日本で日本語を使って「自分らしい暮らし」ができるようになることです。「日本語教室で何をやりたいか」ではなく、「日本語を使ってどんなことができるようになりたいか」、そのためには何を学んだらいいのか、という部分に視点を向けてみましょう。

外国人が日本語を使ってできることが増えていくことで、日本人と外国人とがお互いを理解することへの助けとなり、国籍を問わず、すべての人が「自分らしい暮らし」ができる社会の実現に繋がるのではないのでしょうか。地域の日本語教室には、そうした社会の実現のための大きな役割を担うことが期待されています。

● 「使えなければ」意味がない！

「日本語を使ってどんなことができるようになりたいか」は、学習者によってそれぞれです。どんな学習方法でどんな内容で行ったとしても、それが学習者の「自分らしい暮らし」に繋がっているのであれば、問題ありません。一方で、教室で学んだ日本語を教室以外で使うことができないとしたら…。つまり、教室で学んだ日本語が「自分らしい暮らし」に繋がっていないとしたら、せっかく時間を割いて教室で学んだことが活かせないのは、とても残念なことではないのでしょうか。

暮らしの中で「使える」日本語を意識し、
教室で学んだ日本語を実際に学習者が生活の中で使えているかどうか、確認しているのでしょうか？



学習者と一緒に目標を立てよう。

多くの地域日本語教室は、週に1回、90～120分ぐらいのクラスを行っています。それ以外の時間には、学習者の多くは仕事をしていたり、子育てをしていたりで忙しく、なかなか日本語の勉強に時間を費やすことができないかもしれません。そうした中で、効率的に学習し、学習者自身がスキルアップをしたという達成感を得て、モチベーションを維持するために、学習者と一緒に「〇〇ができるようになる」という目標を立てましょう。

目標を考えるためのやり取りもコミュニケーションの練習になりますし、目標を立てることによって、日常生活の中で意識的に日本語を聞いたり、使ったりできるようになります。学習者と一緒に考えるのでニーズにも合致しますし、今、何のためにこのことばを学んでいるのか明確になります。そして、「日本語を使ってできること」が一つずつ増えていけば、日本語学習が楽しくなることでしょう。

あるいは、普段の教室活動においてボランティアが学習者と雑談したりする中で、学習者が日常生活の中で困っていることがわかれば、それを取り上げてもいいかもしれません。



地域の方との協働が大切。協力者には、活動の趣旨をきちんと伝えよう。

「行動・体験型教室活動」の目的は、学習者が過ごしている日常生活の中で使われている日本語を理解し、使えるようにすることです。そのためには、教室のボランティアだけでなく、地域のいろいろな方たちとのコミュニケーションを図ることが大切です。その時、相手が外国人だからといって、必要以上にゆっくりと簡単な日本語を話されても、「行動・体験型教室活動」の中では意味がありませんし、あまりにも専門的な難しい話をされても学習者は嫌になってしまいます。

地域の方と協働するときには大切なのは、あらかじめ、プログラムの目的や趣旨をきちんと理解していただいた上で、学習者の人数や日本語レベル、目標、プログラム全体の流れなどきちんと伝えておくことです。資料や映像、テーマに関連した書類等、どんなものがあるのかについても打合せをしておく必要があります。

また、学習者がついて行けない場合は、途中で区切らせてもらい、ボランティアが学習者に寄り添って、理解を助ける時間をとることも大切です。



行動・体験した後のふりかえり(確認)が重要。そこで日本語が定着する。

「行動・体験型教室活動」はあくまで日本語学習です。行動・体験することや情報を得ることだけが目的ではありません。

行動・体験した後に学習者とボランティアが一緒に行うふりかえり(確認)の時間がとても重要です。ふりかえり(確認)をすることで、行動・体験したことや、そこで出てきた日本語が定着します。

活動の様子を写真やビデオで撮ったり、出てきた日本語を記録したりして、行動・体験しているときにどんなことが起こったか、どんな日本語が使われていたか、後で学習者が思い出せるようにしておくといでしょう。

また、ふりかえり(確認)のときは、できるだけ、学習者が発言できる機会を増やすようにしましょう。

♡ もっと理解を深めるために ♡

当協会が2015年2月に作成した『「使える」日本語を学ぶ!～行動・体験型の教室活動をつくろう～』では、「標準的なカリキュラム案」や活動をつくるプロセスなどについて詳しく説明しています。あわせてご活用ください。(P.88参照)





すでに教室でいろんなイベントをやって、学習者はいろいろ体験しています。

「行動・体験型教室活動」は、単に何かを体験することを目的としているわけではありません。

学習者が日本で生活する上で「できるようにになりたいこと」「できるようになるといいこと」を踏まえてテーマを決めることが大切です。「お城でも見に行こうか」「みんなで日本料理食べに行こうか」…とは違うのです。

そしてもう一つ大切なことは、行動や体験の中で出てきた日本語やできるようになったこと、わからなかったことをきちんとふりかえって学ぶことです。「楽しかったね」で終わるのではなく、「あの時、お店の人はこんなことを言っていたけれど、どういう意味?」「ああいう場面では、どう言えばいいの?」などのふりかえり(確認)を学習者と一緒に行うことが、実は一番重要なのです。



上級者ならいいけれど、初級者には無理なんじゃないの?

そんなことはありません。初級者も、日本ですでに生活しているわけですから、むしろ初級者こそたくさんテーマを選ぶことができるのではないのでしょうか? もしかしたら明日、大災害が起こるかもしれません。その時、どんな日本語レベルの外国人でも、身を守ることができたり、助けを求めることができるための日本語が必要となります。

行動・体験自体は、初級者も上級者も一緒にできます。ただ、行動・体験したあとのふりかえり(確認)は、レベルごとに分けられると、いいでしょう。また、レベルに幅がある場合は、初級者に合わせた活動にするといいかもしれません。その上で、上級者が初級者をフォローしたり、ボランティアが学習者のレベルに合わせて内容をふくらませたりできるといいですね。



行動・体験型は学習者のニーズに合っていない。

学習者に「何を勉強したい?」と聞いたら、「文法」「漢字」「試験」…と答えると思います。では、「何ができるようになりたい?」と聞いたらどうでしょう。「漢字を勉強したい」という学習者にその理由を聞くと、「スーパーで食品の説明や表示を読んで、きちんと選べるようになりたいから」と言われたことがあります。この場合、漢字をテキストに沿って学ぶより、スーパーのチラシを一緒に見て学んだりの方が、ニーズには合いますね。一方で、学習者が「できるようにになりたいこと」を意識していない場合もよくあります。ボランティアが、学習者の「できるようにになりたいこと」を引き出すことも大切でしょう。



行動・体験型は体験をしないといけないので、準備が大変…。

名称から誤解されてしまいがちですが、「行動・体験型」は必ずしも、どこかへ行ったり、何かを体験しなければいけない活動ではありません。大切なのは、日本で生活する上で何かができるようになるための日本語を学ぶということなのです。

例えば、町内会で配られる「お知らせ」を活用するなど、普段の生活に即したものにすれば、それも「行動・体験型」になります。要は、「This is a pen.」のような日本語ではなく、日本人が普段使う、暮らしの中で必要な日本語を学びましょう…ということなのです。



教室以外の地域の人に協力を頼むのは大変…。

「行動・体験型」は教室の中だけでもできますが、地域の方が活動に加わるとより効果的です。教室のボランティアと、教室以外の日本人の話し方は大きく違います。それを体感するだけでも、大きな「体験」になります。

また、地域の人に教室へ入ってもらった場合、お互いが考えていたことや勘違いしていたことを理解し合うきっかけになります。行政へ出前講座をお願いした場合は、行政側が外国人対応を考えるきっかけにもなるかもしれません。最初はお互いに慣れなくて大変かもしれませんが、そういった橋渡しの役割ができることが、地域日本語教室の強みではないでしょうか。

ただ、話が難しく学習者がついていけない場合などは、途中で区切ってボランティアがフォローするなど、工夫をする必要があります。



教室として決まったやり方があるし、新しいことは取り入れにくいなあ…。

学習者にとって一番必要なことはなんだろう?ということをもう一度考えてみましょう。その結果、「行動・体験型」がいいということであれば、自分たちの教室に合わせたやり方で一部を取り入れてみてもいいですし、今までの方法がいいということになれば、それもアリだと思います。この冊子に掲載されている事例は、研修の一環として、外部協力者と協働したり、3日間で開催したりしていますが、必ずしも全てを取り入れる必要はありません。教室にとって、そして何よりも学習者にとって、どんなやり方がいいか、ボランティア同士、あるいは学習者も含めて、いろいろ話し合ってみると、新しく気付くことがあるかもしれません。

第2章

実践してみました



1.ごみの分別について学ぼう

教室名 : あいち国際プラザにほん語教室
教室開催日 : 土曜日 10:30~12:00
学習者の国籍 : ベトナム、中国、タイ、フィリピン等
レベル : 入門から初級・中級・上級

参加学習者 : 23名 (中国8名、ベトナム5名、台湾、韓国、フィリピン、タイ、アメリカ、イギリス、ジンバブエ、メキシコ、カナダ、コロンビア、各1名)

ボランティア : 11名

外部協力者 : 1名 (名古屋市環境学習センター <エコパルなごや> 環境教育統括担当)

学習者の状況

- 名古屋市または近郊在住で、ごみの分別は複雑。
- 家族に任せていて、経験や関心がない人もいる。

学習者の声

- ごみの分別はむずかしい。
- 袋の違いがわからない。
- 「リサイクル」って何ですか？

目 標

ごみの分別を理解し、地域のルールに従ったごみの出し方が実践できる。

活動の流れ

1日目: 10月15日(土) 10:30~12:00 (90分)		
活動1	10分	「ごみの分別」に関心を持つ
活動2	40分	地域による違いや経験を話す
活動3	20分	写真を見て、ごみの話をする
確認1	20分	ふりかえりと次回の説明
2日目: 10月22日(土) 10:30~12:15 (105分)		
活動4	50分	目的地まで移動する
活動5	30分	専門家の話を聞く
確認2	25分	ふりかえり
3日目: 10月29日(土) 10:30~12:00 (90分)		
活動6	30分	1・2回目の活動をふりかえる
活動7	20分	「ごみの分別」をやってみる
活動8	20分	分別に関するクイズで確認する
確認3	20分	ふりかえり

事前の準備・下調べ

- 名古屋市環境学習センターに見学受入を依頼し、打合せの為に数回出向く。
- 町内のごみの集積場や掲示板、リサイクルボックスの写真を撮って教材を作成する。
- 分別ゲームやクイズの教材を作成する。
- 生活情報パンフレット「なごやの資源・ごみ分別ガイド」(8ヶ国語対応)を取り寄せる。
- 「家庭での分別区分早見表(保存版)」を参考とし、内容を確認する。

活動1 「ごみの分別」に関心を持つ

1. ごみ袋や実物のごみで分別の説明を聞きました。
2. 画用紙、プロジェクターの画面で、16種類の分別名を見ました。



用意したもの

ごみ、ごみ袋
分別名記載画用紙
プロジェクター

活動2 地域による違いや経験を話す

いま住んでいる所や自分の国でごみはいつ、どうやって出すか、ごみ出しで困った経験などをグループで話し合い、発表しました。



用意したもの

ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

- 分別は何ですか？
- そんなにたくさんある、知りませんでした。



こんな日本語を伝えました

- ごみを分けて出します。
- 分別は住んでいるところで違います。



次のことばを説明しました

ごみの分別・可燃ごみ・不燃ごみ
古着・ごみ袋・空きびん
空きかん・ペットボトル



学習者からこんな日本語ができました

- ごみの分別、したことがありません。
- ごみは道路の上に出します。
- 家の前に出します。
- アメリカ、大きいごみ箱。



次のことばを説明しました

ごみ置き場・すて場・資源ごみ
どうやって・毎週・赤い袋

活動3

写真を見て、ごみの話をする

ごみの集積所、資源回収やリサイクルボックスなどの写真を見て、わかることをグループで話し合い、発表しました。



用意したもの

ごみに関する写真
(各グループ配布)
プロジェクター

確認1

ふりかえりと次回の説明

1. ふりかえりシートに今日覚えたことば、文、感想を記入し、発表しました。
2. 次回、名古屋市環境学習センターにバスで出かけることについて、説明を聞きました。

10月22日予定表	
10:30	あいち国際プラザ日本語教室 出発 ↓ 大勢きます
10:44~53	市役所(バス代10円もらいます) ↓ バスに乗ります
10:58~11:07	市役所前 ↓ 大勢きます
11:20	エコベル名古屋 ↓ 大勢きます
11:30	エコベル名古屋 英語さんのお話を聞きます ↓ 質問
12:15~13:00	ふりかえりシート記入 ↓ 休息・昼食
13:00~13:40	パーチャルスタジオ ↓ 大勢きます
13:40	最寄り

用意したもの

ふりかえりシート
22日の予定表

活動4

目的地まで移動する

バスの乗り方、車内でのマナーを学びながら、みんなで一緒に目的地に向かいました。



学習者からこんな日本語ができました

- びんは洗って、青い箱に分けて入れます。
- ふたをとります。袋に入れます。



こんな日本語を伝えました

- ここで何をしますか？
- 何を書いてありますか？
- 段ボールはひもで縛って出します。



次のことばを説明しました

- 洗う・資源回収・段ボール・新聞・紐で縛って・ふた・ラベル・青い箱



ここがポイント

初級から上級までが一緒にやるときのグループ分けは、国が同じ上級者が初級者をフォローできるグループ分けにするなど、工夫が必要ですね。⇒P.4



学習者からこんな日本語ができました

- ごみの分別わかりました。
- ごみの分別は大変です。
- ちょっとむずかしいけどおもしろい。
- これから分けます。



学習者からこんな日本語ができました

- 名鉄バス初めて乗りました。
- お金はどこで払いますか？



こんな日本語を伝えました

- 真ん中のドアから乗ります。
- 入口の整理券を取ってください。
- 降りる人に、道をあけてください。



ここがポイント

遅れてくる学習者もいるので、その場合の対応も考えておきましょう。

活動5

専門家の話を聞く

「ごみの処理と利用」について、名古屋市環境学習センターの方から話を聞きました。



確認2

ふいかえり

ふりかえりシートに今日覚えたことば、文、感想を記入しました。



用意したもの
ふりかえりシート

活動6

1・2回目の活動をふいかえる

前回の内容に補足する形で説明を加えつつ、学んだことを確認しました。



用意したもの
絵カード
資源・ごみ分別ガイド
プロジェクター
分別区分早見表



学習者からこんな日本語ができました

- 洋服をペットボトルで作ります。びっくりしました。
- フィリピンでばらばらなごみ出しました(分別をしてなかった)が、体(環境)のために良くなかった。日本いい国ですね。



次のことばを説明しました

発火性危険物・燃やす・埋める・リサイクル率・3R(リサイクル、リユース、リデュース)・粗大ごみ



ここがポイント

外部協力者との打合せは、しっかりしておく必要があります。⇒P.3



学習者からこんな日本語ができました

- ごみの分別はとても大事なことです。必ず別々でごみを出すつもりです。
- ごみ出しはむずかしい。



こんな日本語を伝えました

ごみの話、わかりましたか？



学習者からこんな日本語ができました

- 容器・3R・古着・古紙
- ラベルをはがす
- CDは煙が出る



こんな日本語を伝えました

- 発生抑制/ごみを減らす
- 再資源化(ごみの再生使用)



次のことばを説明しました

生活習慣・リサイクル率・灰・メタル・スラグ・車止め・再資源化・優先順位・廃棄物・減らす・カラス・発火性危険物・小型家電・乾電池

活動7

「ごみの分別」をやってみる

1. 「イラスト絵カード」を使って分別の疑似体験を行いました。
2. 物の名前を覚えると共に、分別について判断が難しい物については、ボランティアと一緒に分別ガイド等で確認しました。



用意したもの

分別区分早見表
資源・ごみ分別ガイド

活動8 分別に関するクイズで確認する

ごみの実物を見せつつ、問題を読み上げ、併せてスクリーンでも、文字として認識の上、3択で正しいと思うものに挙手しました。

第6問 CDはどのごみで出したらいいでしょうか。

- ① 不燃ごみ
- ② プラスチック製容器包装
- ③ 可燃ごみ



用意したもの

ごみの実物
プロジェクター



学習者からこんな日本語ができました

粗大ごみ・段ボール・紙パック

〇分別は不燃ごみなど、いろいろな種類がある。



こんな日本語を伝えました

リサイクルは再利用と同じ意味です。



次のことばを説明しました

プラスチック製容器包装・拠点回収



学習者からこんな日本語ができました

〇ヘッドフォンは小型家電？

〇トイレトーパー芯は資源ごみ
でしょうか？

〇CDとケースは別々に分別するのか？

〇ナイフの捨て方がわからない。



こんな日本語を伝えました

〇ジュースをこぼしたとき、ティッシュペーパーではなく布巾を使いましょう。

〇ごみを減らすには、まずごみを出さないように心がける。



次のことばを説明しました

牛乳パック・トレー・新聞紙
箱・おむつ・プラマーク

活動を通しての感想を発表してもらい、ふりかえりシートに覚えたことばや文、思ったことを記入しました。



用意したもの

ふりかえりシート



学習者からこんな日本語ができました

- ごみを分けるのは大変ですけど頑張ります。
- 先週に勉強したことをまたやり直してくれて、忘れたことは思い出して、きっと覚えると思います。ここで勉強したことはとても意味があって、私はまた後輩に教えるつもりです。
- ごみを分別しようと思います。将来のために。
- 自分の国も守りたいと思います。



ここがポイント

ごみの分別について、実物・パンフレット・絵カード・クイズなどで何度も繰り返して学んだことが、分別の理解の定着にも、日本語の学習にも、とても効果的だったと思います。1日だけの学習者にも戸惑いなく参加できたのではないのでしょうか。

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- 資料等の準備や、協力者や教室内の他のボランティアとの打合せ時間を確保するのが大変だった。
- 参加人数が多く、3回続けて出席された学習者もかなりいて、関心→理解→定着という積み重ねのプログラムを作ったかいがあった。
- 3回目に、1回目と2回目の写真を見てふりかえりをしたのがとても良かった。
- 説明の時は少しずつ区切って質問の時間を取っておくと、理解できているかが確認しやすい。
- ボランティアからは入門～初級の人にはついていけない内容だという意見が多かったが、学習者の感想は面白かったというものが多かった。



大切だと思ったこと

- 協力者や、教室内の他のボランティアとの事前の打ち合わせ。
- 内容を簡単にしすぎず、日本人でも学べて楽しめる内容にする。
- 皆で出かけるなど、普段の教室ではない一体感があって、楽しく学習できた。

1 ごみの分別について学ぼう 活動案

テーマ／目標	「ごみの分別について学ぼう」/ ごみの分別を理解し、出来るようになる。		
テーマ決めの経緯	学習者の中からごみ出しの方法や分別の仕方が難しいという声があり、住民として生活に不可欠なテーマであると考え、ボランティア全員で協議の上、決定した。		
活動場所	あいち国際プラザ	名古屋市環境学習センター	あいち国際プラザ
協力者	—	名古屋市環境学習センター	—

1日目：10月15日(土) 10：30～12：00 (90分)		
活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1（10分） 日本の「ごみの分別」に関心を持つようにする。	ごみ袋 分別名カード	日本のごみの分別区分の種類の多さ、複雑さを知る。
活動2（40分） 居住地や国で異なるごみの扱い、経験を話せるようにする。	ワークシート	各グループ、ボランティア主導でのワークシートの記入に続き、自己紹介、ワークシートの内容について話し合いをする。 ⇒代表を一人決め、発表する。
活動3（20分） 「ごみの分別」について話が出来るようにする。	語彙一覧 写真	普段、町の中で見かける「ごみの分別」に関する写真を見て、知っていること、わかることを話す。語彙のカードから新しい日本語を学ぶ。⇒各グループ代表1名が発表する。
確認1（20分） ふりかえり	ふりかえりシート	1. ふりかえりシートへ記入する。 2. 次回の活動について話をする。 ⇒集合時間、注意事項等の説明を聞く。

2日目：10月22日（土）10：30～12：30（120分）		
活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動4（110分） 専門家の話を聞き、一層の理解を深める。	—	名古屋市環境学習センター＜エコパルなごや＞を訪問し、 1. 専門家の話を聞く。 2. 展示品の見学および質疑応答。
確認2（10分） ふりかえり	ふりかえりシート	現地にてふりかえりシートを記入する。（理解したことの確認） ⇒ 現地解散

3日目：10月29日（土）10：30～12：00（90分）		
活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動7（40分） 「ごみの分別」をやってみる。	分別一覧表 絵カード ごみ袋	グループごとにルールに従って（パンフレット等から入手した情報に基づき）絵カードを使ってごみ分けの練習をゲームとして行う。
活動8（15分） 学んだことをクイズで確認する。	番号札	ごみに関する簡単な3択クイズで楽しく復習する。
活動9（10分） 質疑応答	—	3回の体験型学習を通して、住んでいる地域のごみ出しなどでわからないことや、疑問に思ったことを最後に行う。
確認3（25分） ふりかえり	ふりかえりシート	1. ふりかえりシートへ記入する。 2. ごみの出し方や分別の必要性など理解できたか、また、新しく覚えた語彙や感想などを、一人ずつ発表する。

2. 母国にいる親しい人に 郵便物を送ろう

教室名 : 刈谷市国際交流協会日本語教室
 教室開催日 : 土曜日 19:00~20:30
 木曜日・日曜日 10:00~11:30
 学習者の国籍 : ベトナム、中国、フィリピン、ブラジル等
 レベル : 入門から初級
 目的別に「会話クラス・日本語検定クラス」

参加学習者 : 1日目5名、2日目1名、3日目1名（ベトナム、中国、フィリピン）

ボランティア : 1日目6名、2日目3名、3日目4名

外部協力者 : 1日目2名、3日目4名（刈谷郵便局窓口営業部）

学習者の状況

- 普段、母国の家族や友人との連絡は主に電子メール、電話を使っている。
- 母国と郵便物のやり取りをした経験がない。

学習者の声

- 日本に来てから年賀状等を出す機会はなかった。（知らなかった）
- 電子メールよりも、直筆の手紙やはがきをもらうほうが嬉しい。

目 標

母国にいる親しい人に郵便物を送ることができる。

活動の流れ

1日目：9月24日(土) 10:00~11:30 (90分)		
活動1	50分	国際郵便について学ぶ（出前講座）
活動2	10分	誰にどんな手紙を書くか決める
活動3	10分	各国の郵便ポストについて学ぶ
確認1	20分	今日学んだことをふりかえる
2日目：10月8日(土) 10:00~11:30 (90分)		
活動4	40分	絵はがきの書き方を学ぶ
活動5	20分	国際航空郵便について学ぶ
活動6	10分	小包を送るためのラベルを書く
確認2	20分	今日学んだことをふりかえる
3日目：10月29日(土) 10:30~12:30 (120分)		
活動7	10分	絵はがきを完成させる
活動8	80分	郵便局で国際郵便を送ってみる
活動9	10分	「季節の便り（年賀状等）」を学ぶ
確認3	20分	3日間の活動をふりかえる

事前の準備・下調べ

- 刈谷郵便局の土曜日の営業時間（郵便業務）の確認をする。
- 学習者への事前プレゼン（テーマへの興味をはかる）、参加者募集資料作成、募集をする。
- 刈谷郵便局との打合せを実施する。
- 実践活動に必要な資料の作成や使用するもの（はがき等）の準備をする。
- 実践開始前にプログラム参加希望登録者（19名）に対し、「直筆の案内はがき」を作成・郵送する。
- 1日目に参加した学習者に対して「お礼状」を作成し郵送する。（次回も参加するようお誘い）

活動1

国際郵便について学ぶ

1. 刈谷郵便局より国際郵便の種類や海外に郵便小包を送る際の注意事項の説明を受けました。
2. 学習者から郵便局員に質問しました。



用意したもの

刈谷郵便局資料
 ・郵便の種類
 ・国際郵便の書き方
 ・小型包装物資料

活動2 誰にどんな手紙を書くか決める

通販で購入できる絵はがきを各自選択し、次回実習の時にはがきを送る相手と文面を考えました。



用意したもの

絵はがきカタログ

活動3 各国の郵便ポストについて学ぶ

各国の郵便ポストの色や形の違いについて、クイズ形式で楽しく学びました。



用意したもの

世界の郵便ポストの資料



学習者からこんな日本語ができました

- お菓子は送れますか？
- Wi-Fiのルーターを送ったことがあります。
- ベトナム語で宛て先を書いていいですか？
- EMSはどれだけ高いですか？



こんな日本語を伝えました

- はがきと封書、国内郵便と国際郵便の違いを覚えよう。
- 料金は重さで変わります。



次のことばを説明しました

エアメール・航空便・船便
 絵はがき・小型包装物 = 「小包」



学習者からこんな日本語ができました

- ひとり何枚までですか？
- 富士山に登ったことがあります。



ここがポイント

きれいな絵はがきやシールで、日本の風景や文化にも触れることができました。



学習者からこんな日本語ができました

- どの国の郵便ポストかわかりませんでした。
- ベトナムでは、郵便物は郵便局に取りにいきます。



次のことばを説明しました

各国・郵送

確認1

今日学んだことをふりかえる

郵便局員の説明でわかったこと、難しかったことをシートに記入しました。

用意したもの

ふりかえりシート

活動4

絵はがきの書き方を学ぶ

1. 絵はがきの送り先と住所を確認しました。
2. テンプレートに差出人・宛て名・宛て先の住所を書く練習をしました。
3. 「富士山」「金閣寺」の絵はがきを選び、宛名書きを清書しました。



2016年10月8日(土曜日)

今日のテーマ
「あなたの大切な人に気持ちを伝える手紙を書きましょう！」

1. 自己紹介(学習者、ゲスト、見学者) 5分
2. グループで話しあいましょう。 5分
だれに絵はがきを書いて送りますか？
3. 「あて名書き」の練習をしましょう。 10分
4. 絵はがきに書くメッセージを書きましょう。 10分
5. 注文した絵はがきを完成させましょう。 15分

休憩(5分)

6. 国際航空郵便の送り方を学びましょう。30分
送っていいもの、送ってはいけないものを分けましょう。
EMS(国際スピード郵便)のラベルを書きましょう。

ふりかえり(10分)

7. 今日学習したことばや会話を復習しましょう。

絵はがきの あて名は どう 書けば いいの？

POST CARD

70円 切手

From: Nguyen Thi Huang, 502, Suniyoshi Apartment, 5-15 Azauchi-cho, Kanaya-shi, Aichi 465-0823, JAPAN

To: Mr. Khong Minh San, 396 My Dinh, Tu Liem, Ha Noi, VIET NAM

Minh xin lỗi vì tôi làm rồi mình không viết thư cho bạn.

Thân thương,

AIR MAIL

絵はがきは、全世界あて 70円(航空便で) 送ることができます。
メッセージは あて名面の 左半分に 書き、右半分に あて先の 住所・氏名等
を 記入します。

用意したもの

宛名書きサンプル
テンプレート

活動5

国際航空郵便について学ぶ

国際航空郵便で送れない航空危険物、法的規制物品をクイズ形式で学習しました。



用意したもの

航空危険物・法的規制
物品サンプル表



学習者からこんな日本語ができました

危険物の種類がわかった。



こんな日本語を伝えました

早く確実に海外に荷物を送るには、
国際スピード郵便(EMS)が有効です。
ただし、料金は高いです。



学習者からこんな日本語ができました

- (ベトナムには)郵便番号はありません。
- 名前と住所は日本語で書くのですか？
- 兄の住所と郵便番号を調べます。



こんな日本語を伝えました

絵はがきの右半分に宛て名を、左半分に
メッセージを書きましょう。



次のことばを説明しました

郵便番号・差出人・宛て先・宛て名



学習者からこんな日本語ができました

送ってよい物かわからないとき、
上司に聞きます。



こんな日本語を伝えました

わからないことがあれば、郵便局員
にも直接尋ねましょう。



次のことばを説明しました

航空危険物・アルコール類・火薬
植物の種・象牙

活動6 小包を送るためのラベルを書く

国際スピード郵便（EMS）のラベル書きを体験しました。

用意したもの

国際郵便EMSラベル

確認2 今日学んだことをふりかえる

わかったこと、難しかったことをシートに記入しました。



用意したもの

ふりかえりシート

活動7 絵はがきを完成させる

メッセージを書きこんだ絵はがきを完成させました。



用意したもの

予備の絵はがき



学習者からこんな日本語ができました

書くところが多くて難しい。



こんな日本語を伝えました

今日難しかったところは、来週郵便局の人に尋ねましょう。



次のことばを説明しました

ご依頼主・お届け先・価格・ご署名



学習者からこんな日本語ができました

- 漢字で住所が書けました。
- 宛名、小包ラベルが円滑に書けるようになりました。
- はがきのメッセージを書くのは、宿題にしました。
- 発音の難しいことばが多い。



こんな日本語を伝えました

航空危険物のほかにも、法律や国際的な規制で送ってはいけないものがあります。



学習者からこんな日本語ができました

お兄さんの住所が違っていました。
(活動4からの流れ)



次のことばを説明しました

書き直す・書き忘れる・書き間違える



こんな日本語を伝えました

赤字でAIR MAILと書くのを忘れないようにしましょう。

活動8 郵便局で国際郵便を送ってみる

1. 窓口で郵便局員に訊いて、切手を買いました。
2. 絵はがきに国内52円、ベトナム・インド向けに70円切手を貼りました。
3. 国内郵便を郵便局前に設置してあるポストに投函し、ベトナム・インド向けは郵便局窓口に出しました。



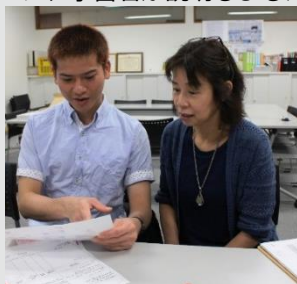
4. ベトナムに送るための国際郵便EMSラベルを郵便局員に訊きながら書きました。
5. 郵便局員の指導で、品名や価格、種別（贈り物）を英語で記入しました。（活動6でわからなかったところを聞きました。）



6. 「海外に送れる物・送れない物」のリストについて郵便局員に質問しました。



7. 郵便局で学んだことを、同行しなかったボランティアに、学習者が説明しました。



用意したもの

事前に書いた絵はがき
包装した箱（小包を模擬）
活動5で使用した航空危険物
法的規制物品サンプル表



学習者からこんな日本語ができました

- これを送りたいです。切手はいくらですか？
- インドとベトナムでお金は違いますか？



こんな日本語を伝えました

- 国内は52円で、ベトナムやインドは70円です。
- 領収証は必要ですか？



次のことばを説明しました

切手・ポスト・領収証



ここがポイント

ただはがきを書くだけでなく、本当に送って相手に届くことがうれしい体験になります。ただし、一般利用客の迷惑とならない場所や時間帯を選ぶことも大切です。



学習者からこんな日本語ができました

- 内容品、価格、種別の書き方を教えてください。
- これを送るといくらかかりますか？
- 宝石は送れますか？
- 香水はなぜ送れませんか？



こんな日本語を伝えました

- 内容品は、英語か母国語で書いてください。
- 宝石は保険が掛けられる200万円まで送ることができます。わからないことがあったら何でも、郵便局の人に訊いてください。



次のことばを説明しました

インボイス・保証・保険・贈り物
身の回り品・アルコール類・危険物
象牙・ダイヤモンド



ここがポイント

事前に郵便局を訪れ、活動の趣旨を理解してもらっていたので、局員の方々が協力的でした。



学習者からこんな日本語ができました

危険なものやアルコールが入っているものは海外に送れません。

活動9「季節の便り(年賀状等)」を学ぶ

日本の習慣になっている、年賀状等の季節の便りの種類と、それらをいつ出せばよいのかを学びました。



用意したもの

はがきによる「季節の便り」(資料)

確認3 3日間の実践活動をふいかえる

お菓子を食べながら、3日間の学習を思い出し、覚えたことと、難しかったことを話し合いました。



学習者からこんな日本語ができました

年賀状を出してみたい。



こんな日本語を伝えました

はがきの上に「郵便はがき「postcard」と書いていないと、大きさに関係なく料金が手紙扱いとされます。



次のことばを説明しました

年賀状・暑中見舞い・案内状・お礼状



学習者からこんな日本語ができました

○外国に送れるものがわかりました。
○日本で絵はがきを書くのは横書きと縦書きがある。



こんな日本語を伝えました

帰国のとき、荷物を何で送りますか？



次のことばを説明しました

保険をかける

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- 通常の日本語教室と異なる日時に実施計画したため、突然欠席者が出た場合、リカバリーが難しいことを改めて認識した。
- 事前準備は周到に行うべきだが、実践では学習者の理解の歩調に合わせて活動内容の絞り込みが必要。
- 円滑にプログラムを進行するには、ある程度日本語力のある学習者の援助が必要。
- 同プログラムに参加するには、ある程度、日本語力がある学習者(初級2レベル)を対象にした方がよい。(参加人数が多いと、進行に支障が生じ本人も楽しさが半減する。)
- 日本語初級の場合は、事前学習会で郵便用語や授受表現の予習・復習が必要。
- 学習者を飽きさせない「ゲーム」的な要素や自由会話を折り込むとよい。
- 郵便局のような営業時間内での実習では、少人数での実践の方が効果的である。
- 今回は、最終日、学習者が1名であったため郵便局員との質疑応答を含め十分な交流時間が持てた。
- 行動体験型の授業は、実践的で有効な場合もあるが、運営上難しい面(学習者のニーズと合致するかどうか、日本語の基礎がない学習者は全くついていけない等)と、準備を含め、ボランティアに非常に大きな負担がかかるため、実際に教室で運用するにはかなり工夫が必要と考える。
- ふりかえりには、お菓子やお茶を飲みながら和やかな雰囲気で行った方が本音が出やすい。



大切だと思ったこと

- 参加者募集の段階で、テーマにかける思い、学習者にとっての嬉しさを伝える工夫が必要。
- 学習者の負担も考え、通常の日本語教室の開催時間に合わせて実践活動を行うことが理想。
- 日本語力の低い学習者と話をする際は、言葉を割り込ませることなく、相手が話し始めるまで辛抱強く待つことが重要である事を再認識。

2 母国にいる親しい人に郵便物を送ろう 活動案

テーマ／目標	郵便物を送る／母国に郵便物を送ることができる		
テーマ決めの経緯	学習者から、海外に郵送する際、戸惑ったという声があったので、郵便局の利用方法を学び、日常的に郵便物を送れるようになる必要があると考え、このテーマを選定した。		
活動場所	刈谷市民交流センター	刈谷市民交流センター	刈谷郵便局 刈谷市民交流センター
協力者	刈谷郵便局	—	刈谷郵便局

1日目：9月24日(土) 10：00～11：30 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1（15分） 活動の流れを理解する 自己紹介	スケジュール表	3日間の活動の流れを説明し、自己紹介しあう。
活動2（30分） 郵便局の概要を理解する	—	1. 郵便局員から郵便局でできること、サービス概要、郵便局を利用するに当たって注意すべき事項（あれば）の説明を受ける。 2. 質疑応答。
活動3(確認)（30分） 郵便局専門用語、ステップを理解する	資料	1. 本日の郵便局員説明でわかったこと、難しかったことの確認をする。 2. 郵便局で使われる専門用語、絵はがきを投函するに至るまでのステップ（手順）を理解し、実践活動に向かって心情的準備を行い、はがき・手紙に書く原稿を考えるように促す。
活動4（7分） 絵はがきを選択する	絵はがきサンプル	絵はがきの選択肢を示して、各自好みのものを決める。（2日目までに準備する）
確認1（8分） 本日の活動を振り返る	—	本日の説明で分かったこと、難しかったことを振り返る。

2日目：10月8日(土) 10：00～11：30 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動5（35分） 練習用の下書きを作る	便箋・はがき	「あて名」「あて先（住所）」「差出人住所」「郵便番号」が正しく書けるように練習し、メッセージの原稿の下書きをする。
活動6（35分） 素材を工夫してはがきや手紙を清書する	写真・シール 筆記用具 その他	1日目で選んだ絵はがきをベースに個性的な仕上がりになるようイラスト、シール、写真等を使って加工し、お便りを清書する。
確認2（20分） 覚えたことばを使って発表する	カメラ	完成に近い作品を各自披露し、参加者から意見を募る。学習者とボランティアは、清書したはがきや手紙を披露し、完成度を高めるためのアイデアをお互いに募る。

3日目：10月15日(土) 10：00～12：00 (120分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動7（70分） 郵便局で絵はがきを投函する	絵はがき 小包	1. 局員とのやりとりを経て絵はがきを投函する。（学習者） 2. 同行するボランティア（アテンド）は学習者の発話、局員とのやりとりを記録する。 3. ボランティアは、学習者の行動を見守るが、学習者からの質問には答える。
活動8（20分） 学習者とボランティアによる振り返り	—	できたこと、わかったこと（新しく覚えた言葉含め）、難しかったことを学習者同士で話し合う。 （事前に、お菓子を準備するなどして話しやすい環境を整える）
確認3（30分） 振り返り （ボランティア＆見学者）	—	当プログラム全体を振り返り、できたこと、できなかったこと、今後のやるべきことを話し合う。

母国にいる親しい人に郵便物を送ろう

KIFAV日本語支援グループ

私たちの教室はこんなところ

場所：刈谷市国際プラザ
時間：木曜日 10:00 - 11:30
土曜日 19:00 - 20:30
日曜日 10:00 - 11:30

学習者の現状

- ・普段は母国の家族や友人とは電子メールでやり取りしており、手書きの手紙を出したことはない
- ・電子メールよりも、手書きの手紙をもらう方が嬉しいと思う

目標

- ・海外に郵便物が送ることができる
- ・郵便局で分からないことを尋ねられる

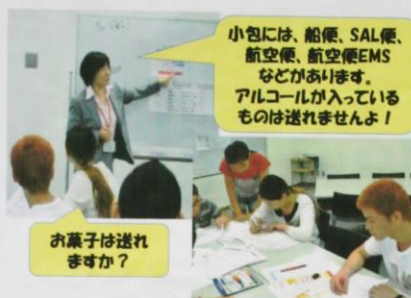
1日目

郵便局の人から話を聞きました

- ① 全体の流れを説明しました
- ② 郵便局の人から話を聞きました

はがきや小包の出し方... 出し方にもいろいろあるね
小包で出してもいいもの、いけないものがある！
化粧品はだめなの？！

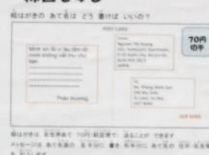
- ③ 実際出す絵はがきを選びました



2日目

はがきの宛名や小包のラベルの書き方を練習しました。
小包で送れるもの、送れないもののクイズで復習しました。

- ① 宛名書きの練習をして、絵はがきの書き方を学びました
- ② 国際航空郵便で送れるもの、送れないものを仕分けるクイズをしました
- ③ 国際郵便で小包を送るためのラベル(EMS)を書く練習をする



3日目

郵便局に行って、絵はがきと小包を出しました

- ① 郵便局窓口で航空郵便の出し方を尋ね、絵はがきを投函しました



内容品、価格、種別の書き方を教えて下さい。

- ② 局員に聴き、模擬小包を海外に送るラベルの書き方等手続きを体験しました



- ③ 国際郵便で送れるもの、送れないもの理由を郵便局員から学び、それを他の人に説明しました

- ④ はがきによる「季節の便り(年賀状等)」の種類と出すタイミングを学びました



実践を終えて

- ◆ 今回、参加してくれた学習者が2、3日目には一人になってしまい、寂しい感じとなってしまった。今回、郵便局の都合に合わせて通常の教室と違う時間に実施したことが原因の一つ。
- ◆ 反面、学習者が少ないが故にじっくりやれた。学習者が回を追うごとに積極的になり、最終的には郵便局員に聞いたことを他の人に説明できるまでになった。学習者の進歩を感じ、大変うれしかった。

今後の課題

- ◆ 今回、行動体験型を学んでみて、通常の教室に活かすには議論と工夫が必要と感じた。
 - ・準備が非常に大変
 - ・教室全体の協力が必要
 - ・日本語のベースが全くない人には苦痛なのでは

3. 食品表示の見方を学ぼう

教室名 : あいち国際プラザにほん語教室
 教室開催日 : 土曜日 14:00 ~ 15:30
 学習者の国籍 : 中国、韓国、台湾、ベトナム、
 フィリピン、ペルー等
 レベル : 入門から上級まで様々

参加学習者 : 15名 (中国、ペルー、韓国、ベトナム、カナダ、バングラデシュ等)
 ボランティア : 10名
 外部協力者 : 2名 (愛知県健康福祉部保健医療局生活衛生課食の安全・安心グループ)

学習者の状況

- 仕事で来た人。結婚して同行した人。言葉の勉強の為。その他種々
- 日本で自炊をしている人
- 全部外食の人、主婦をしている人等種々

学習者の声

- スーパーで買い物をする。
- あまり買い物をしない。
- 表示は関心が無かった。
等

目 標

食品の表示を理解して、
 買い物の時に役立てる
 ようになる。

活動の流れ

1日目：10月1日(土) 14:00~15:30 (90分)		
活動1	10分	表示って何？
活動2	60分	表示の正しい見方を学ぶ
確認1	20分	グループでふりかえり
2日目：10月8日(土) 14:00~15:30 (90分)		
活動3	10分	買物で失敗したこと、ありますか？
活動4	60分	食品の空容器で体験
活動5	10分	母国の表示について話す
確認2	10分	ふりかえり
3日目：10月22日(土) 14:00~15:30 (90分)		
活動6	30分	クイズで復習
活動7	50分	発表に向けたグループワーク
活動8	10分	グループ発表

事前の準備・下調べ

- 「行動・体験型活動」はクラス全体で取り組むことを確認する。
- 愛知県生活衛生課食の安全・安心グループに、県政お届け講座を依頼する。まだ日本語が初級の外国人にも理解できるような内容で、話し方をやさしくしてもらう。
- 活動の中で実際に買い物には行かないので、色々な種類の食品の空容器を集める。
- 安全な食生活を送るために、知っておくとよい漢字とその意味を、体験を通してどう伝えるか考える。

活動1

表示って何？

食品には、色々な表示が書いてあることを学びました。



用意したもの

カメラ
ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

自国にも同様の表示がある。



次のことばを説明しました

開封・表面・裏面・加熱・召し上がる・
炒める・腐る・湿る・落花生

活動2

表示の正しい見方を学ぶ

パワーポイントを見ながら、表示の正しい見方に関する講義を聞きました。



学習者からこんな日本語ができました

パッケージのImportant。
(表示が重要だということ)



こんな日本語を伝えました

買物に行く前に今日の日付を確認しておき、お店で商品を見て、いつまで保存できるか確認できるといいですね。



次のことばを説明しました

賞味期限・消費期限・いくら・くるみ・アレルギー・やまいも・まつたけ・製造日・加工日

確認1

グループでふりかえり

今日学んだことをふりかえり、感想をグループで話し合いました。



活動3

買物で失敗したこと、ありますか？

1. 買い物で失敗したことがあるかどうか話しました。
2. コーディネーターが自分の失敗を例として話しました。



活動4

食品の空容器で体験

1. ボランティアと一緒に、賞味期限・消費期限の文字がどこに書かれているかを、机の上に用意した食品の空容器で確認しました。
2. 保存方法やアレルギーの表示がどこにあるかを確認しました。



用意したもの
食品の空容器
おにぎり



学習者からこんな日本語ができました

- むずかしい。
- 知らないことが多かった。情報はいっぱい。



次のことばを説明しました

常温・室温・炒める・蒸す
直射・生産地



学習者からこんな日本語ができました

- 秋鮭・粒より小餅・パン・直射日光
- 高温多湿を避けて保存する。
- 牛乳は見る。
- 卵も見る。23日と18日があったら23日のにする。
- 色々なパッケージがあって楽しかった。



こんな日本語を伝えました

- 保存方法には色々ある。
- 「香り」と「臭い」は違う。



次のことばを説明しました

紙・プラスチック・缶
冷凍保存できるもの



ここがポイント

自分でも、家で日頃すぐに確かめられる、身近な内容ですね。

活動5

母国の表示について話す

1. 母国の食品表示を知っている人は、書きました。
2. そのことをボランティアに話しました。



学習者からこんな日本語ができました

- 韓国は流通期間・保存方法がある。
- ベトナムには消費期限がある。
- 授業はとても役に立った。バングラデシュにも同様の表示がある。
- 半分しかわからない。
- 買物に大事なことを習って良かった。



こんな日本語を伝えました

食品表示は母国と基本的には同じだと思うが、細かい違いはある。

確認2

ふいかえい

今日のわからなかったことなどを話しました。

活動6

クイズで復習

1. 身近な絵表示を使った5問クイズをしました。(オリンピック、禁煙、エレベーター、トヨタ自動車、マタニティマークのクイズで、表示に関するアイズブレイク)
2. 賞味期限と消費期限のクイズをしました。
3. 冷蔵庫のイラストを貼って、保存方法はどこ?のクイズをしました。



用意したもの
クイズ用の資料



学習者からこんな日本語ができました

この日までに食べる。



こんな日本語を伝えました

期限内でも自分の目・鼻・舌で確かめる。



次のことばを説明しました

エレベーター・禁煙・
マタニティマーク・オリンピック・
トヨタ自動車

活動7 発表に向けたグループワーク

食品を買う時にどんなことが大切かをふりかえり、大事なこと、わかったことを付箋に書き、発表用紙に貼ってまとめました。

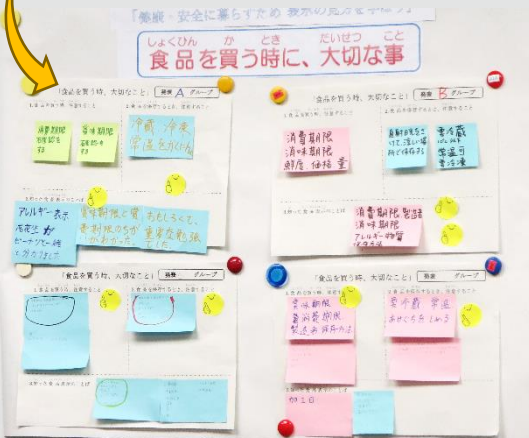


用意したもの
ふりかえりシート

活動8

グループ発表

1. グループ毎に学習者が前に出て、書いた内容を発表しました。
2. 最後に、発表を聞いた学習者が自分もそうだと
思ったことに「賛成」シールをつけました。



学習者からこんな日本語ができました

- アレルギー物質を見る。
- 食品を買う時は、賞味期限・消費期限・
保存方法・加工日を見る。
- お母さん、蟹アレルギー
- 表示をこれからはちゃんと見る。
- 正しい食品のしもう方法



こんな日本語を伝えました

体調によっても症状があったり、
無かったりする。



次のことばを説明しました

10℃以下・生産地



こんな日本語を伝えました

発表する事が日本語上達の最上方法。



次のことばを説明しました

ドライ・高温多湿・冷凍・室温・値段
加工日・要冷蔵・10℃以下・添加物



ここがポイント

「賛成」シールを貼るという作業を
するよう伝えることで、他の人の発表を
一生懸命聞けますね。

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- 学習者の話す能力が違うので、全員に興味をもってもらうのは、なかなか難しいと思う。
- 大体の学習者が、賞味期限・消費期限・保存方法の言葉と意味を理解してくれたと思う。
- ボランティアとしては、言葉の充分でない学習者にどのようにその主旨を説明するか、身振り手振りで、少し困りました。
- 学習者の「日本の表示は信じられる」との感想が嬉しい。
- 日付を一番先に見て、確認するようになった。
- この研修は時間を長くしても（半日コースなど）1回で完結する形にした方が、やり易いと思った。



大切だと思ったこと

- 相当な心の準備と、内容に対しての理解と表現力が必要。
- 講座の進行役より、ボランティアの各グループでのフォローが大切。今回はボランティア全員が積極的に参加してくれた。
- 書くこと、行動すること、発表（発言）することが、重要！！

3 食品表示の見方を学ぼう 活動案

テーマ／目標	健康・安全に暮すために、表示やラベルの見方を学び、生活に役立てるようにする。		
テーマ決めの経緯	生鮮食品・加工食品や飲料水には、様々な表示やラベルが付いている。日本で暮らす外国人にとってそれらの表示の正しい見方を知るとは、健康で安全に暮らす為に重要であると、テーマに採り上げた。この研修を通して、表示を理解するのに必要な日本語の意味を正しく学ぶことを、ねらいとした。		
活動場所	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ
協力者	愛知県生活衛生課 食の安全・安心グループ	—	—

1日目：10月1日(土) 14：00～15：30 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1（10分） 「表示って何？」	資料 カメラ(記録用) ワークシート	学習者とボランティアに、 1. 品物には色々な表示が書いてあることを、知っている？ 2. ふりかえりシートの使い方の説明 3. ワークシートに名前を記入する。
活動2（60分） 県政お届け講座 （県生活衛生課）	—	毎日の食生活の安全・安心のために、食品を購入する時、その食品に付いている、ラベル・マーク・表示内容等を正しく読んでいるか、確認出来ているか等、パワーポイントを見ながら、正しい見方を学ぶ。
確認1（20分） 「表示を知っていた？」	—	1. 出前講座を聞いて、グループで、感想など話し合う。 2. 今まで買い物をする時、賞味期限等の日付表示を見ていたか。 3. 分かったこと、分からなかったこと等、ワークシートに書く。

2日目：10月15日(土) 14：00～15：30 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動3（10分） 「母国の表示？」	カメラ(記録用)	1. 学習者の母国の表示の様子をグループ毎に話し合う。 2. 母国の表示で知っていることをワークシートに書く。
活動4（10分） 「買い物で失敗したことある？」	ワークシート	グループ毎に話し合う。ワークシートに書く。 1. 日本で、買い物で困ったこと。 2. 日本で、買い物で失敗したこと。
活動5（60分） 「空容器を使って、3つの言葉を見つけよう」	空容器	机の上にある様々な空容器を使って ①賞味期限（消費期限） ②保存方法 ③原材料名の3点の見方を練習して、見方を確認する。
確認2（10分） 「空容器を使った体験から気付いたこと」	—	表示には何が書かれているか、分かったこと、分からなかったこと等、ワークシートに書く。

3日目：10月22日(土) 14：00～15：30 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動5（10分） 「マーク・表示クイズ」	パネル マグネット	コーディネーターが、黒板にマークや言葉のパネルを見せて、学習者に答えを当てさせるクイズ（10問）
活動6（10分） 「消費期限と賞味期限とは？」	パネル	クイズの中に出てきた消費期限と賞味期限の、言葉の持つ意味の違いを、クイズ形式で取り組む。
活動7（10分） 「保存方法とは？」	パネル	保存方法の違いをクイズで当てさせる。 （要冷蔵・要冷凍・常温）
活動8（40分） ふりかえり 安全・安心な食生活のために、食品を買う時大切な事を気付かせる。	写真（2日目の様子）・模造紙のり・付箋用紙 マジックペン	食品を買う時に、どんなことが大切なのかをふりかえる。 1. 食品を買う時、商品の何を見るか。 2. 大事なこと、分かったことを付箋に記入する。 3. A3用紙に貼って、皆でまとめる。
確認3（20分） グループ発表（分かったことの発表）	賛成シール	1. グループ毎に学習者が前に出て、発表する。 2. 発表した用紙を模造紙に貼る。 3. ボランティアと一緒に、発表したポスターを見て、良いと思った言葉に「賛成」シールを貼る。

健康・安全に暮らす為に

食品表示を学ぼう



あいち国際プラザにほん語教室
土曜午後クラス
場所：あいち国際プラザ2F
学習者：名古屋及びその近郊で生活する外国人
参加者：15名
ボランティア：10名

テーマを決めた経緯

生鮮食品・加工食品には、様々な表示が付いている。
日本で暮らす外国人にとって、それらの表示の正しい見方を
知ることは、健康で安全に暮らす為に、重要であるとテーマに
取り上げた。この研修を通して、表示を理解するのに必要な
日本語の意味を正しく学ぶことを、ねらいとした。



第1日目：「食品表示って何？」

出前講座



見て！知って！ 食品表示の基本

外部協力者：2名
愛知県 生活衛生課
食の安全・安心グループ

- パワーポイントを使って説明を聞く。
- 講座の資料を見ながらグループで話し合った。
- 「むつかしい」「知らない言葉が多かった。」
- 「情報がいっぱいあった」

第2日目：「空容器を使って、賞味期限・消費期限・保存方法をみよう」

行動・体験学習

- 色々な空容器を見ながら、買った3つの言葉がどこに書かれているか確認をする。
- 空容器で気付いたことなどを話し合う。
- 保存方法に色々あることを学んだ。



第3日目：「食品を買う時に大切な事」

クイズで3つの表示を整理



- 2日間で学んだ事を3つのクイズで
(表示クイズ・賞味期限・消費期限クイズ・
保存方法クイズ) 思いだし、整理しながら、
言葉定義させた。
- 「まとめ」をグループごとに作成し、発表した。

まとめ・振り返り



食品保存場所

冷蔵室	
ようれいどう 要冷蔵	5℃以下
	10℃以下
野菜室	
冷凍室	
ようれいどう 要冷凍	-15℃以下
	-18℃以下
じゃーおん 常温	

学習者の感想

- 色々なパッケージがあって、楽しかった。
- 買い物に大事なことを習ってよかった。
- 正しい食品のしまい方を知った。
- 日本の表示は信じられる。
- 日付を一番先に見て、確認するようになった。

ボランティアの感想

- 期限内でも自分の目・鼻・舌で確かめる。
- 発表することが日本語上達の最上方法。
- ある程度日本語が理解できていないと、難しい、
楽しくない。
- ボランティアとしては、言葉の充分でない学習者に
如何にその主旨を説明するのに、身振り手振りで、
少し困りました。



4.自転車のルールを知ろう

教室名：江南市国際交流協会「ワイワイ日本語教室」

教室開催日：月・金 10：30～11：30

月～金 13：00～14：00

学習者の国籍：ベトナム、フィリピン、中国 等

レベル：初心者から中級者まで

参加学習者：5～10名（ベトナム、フィリピン、中国、モンゴル、ブラジル等）

ボランティア：3名

外部協力者：3名（江南警察署、江南自動車学校）

学習者の状況

- 普段自転車に乗っているが、日本の交通ルールは知らない。
- 自転車に乗る機会がない人もいる。（歩行者または車）

学習者の声

- 日本の交通ルールを知らない。
- 自転車の新しいルールって？

目 標

日本の自転車のルールを知り、正しく安全に乗ることができる。

活動の流れ

1日目：10月21日(金) 10：00～11：30 (90分)		
活動1	20分	自転車の事故の動画を見る
活動2	40分	自転車クイズでルールを学ぶ
確認1	30分	今日学んだことをふりかえる
2日目：10月23日(日) 10：00～12：00 (120分)		
活動3	90分	自転車講習会で話を聞く
確認2	30分	今日学んだことをふりかえる
3日目：10月28日(金) 10：00～11：40 (100分)		
活動4	10分	ことばをふりかえる
活動5	50分	道路標識を見て回る
活動6	30分	グループで感想を伝え合う
確認3	10分	今日学んだことをふりかえる

事前の準備・下調べ

- 日本の自転車のルールをボランティアが学習し、自転車のルールのイラストを準備する。
- 教室周辺の道路標識を下調べする。
- ワークシートなどの資料を作成する。
- 自転車事故の動画を準備する。
- 自動車学校講師と打合せをする。

活動1

自転車の事故の動画を見る

自転車vs車の事故、自転車vs歩行者の事故の動画を見て、感想を言いました。



交通安全教育DVD「保護者編」chapter1



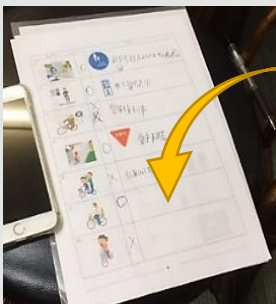
用意したもの

交通事故の動画

活動2

自転車クイズでルールを学ぶ

- イラストのクイズを見て、正しいかどうか○×を付け、なぜそう思ったか発表しました。
- その後解説を聞いて、正しいルールを知りました。



用意したもの

自転車ルールのクイズ
(パワーポイントとイラスト)

ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

- 怖かった。 ○あぶない。
- 気をつけないと(慰謝料を)払わないといけない。



こんな日本語を伝えました

自転車と自動車は同じ仲間です。
(自転車も車両(軽車両)のひとつで、危険も伴うということ)



次のことばを説明しました

賠償金



学習者からこんな日本語ができました

- ベトナムでは3人で乗る、いいです。
- 中国と違う。
- その看板、自転車と歩行者一緒に使います。



こんな日本語を伝えました

- お酒、2人乗り、傘はダメです。
- 左側を通ってください。



次のことばを説明しました

合羽・ヘルメット



ここがポイント

- 日本語がまだあまりわからない学習者には、母語が同じ学習者が、フォローしました。
- 文字が少なくイラストが多いワークシートは、初心者の学習者もストレスなく参加できますね。

確認1

今日学んだことをふりかえる

ワークシートに記入後、一人ずつ、今日の感想を言いました。



用意したもの

ワークシート

活動3

自転車講習会で話を聞く

江南市国際交流協会主催の自転車講習会に参加し、警察官、自動車学校の講師の話を聞きました。



用意したもの

自転車の5つのルール紙
(各国語で)



学習者からこんな日本語ができました

- 自分は自転車に乗るので気を付けたい。
- 人の生活にとって大切なことだと思います。
- 歩行者に気を付ける。
- カップ、私はやらないからこれからやります。
- 自転車も罰金あります。



次のことばを説明しました

警察



学習者からこんな日本語ができました

- 難しい。
- 60%わかりました。
- 自動車などわかるが、他の漢字わからない。
- 歩いているとき、音楽を聞きます。どうですか。



こんな日本語を伝えました

夜はライトをつけます。



次のことばを説明しました

シミュレーター・反射剤・左側通行・歩行者優先・標識



ここがポイント

地域の日本人、普段教室に来ていない外国人も一緒に学びました。講習会の後はボランティアの皆さんが用意した軽食やお茶を飲んで和みました。普段から学校や地域と協力関係を築き、居心地のよい教室とすることが大切です。

確認2

今日学んだことをふいかえる

ワークシートに記入後、一人ずつ、今日の感想を言いました。



用意したもの

ワークシート

活動4

ことばをふいかえる

前回までに学んだ、テーマに関することばをふりかえりました。



活動5

道路標識を見て回る

ふくらの家の周囲にある道路標識を、実際に歩いて見て回りました。



用意したもの

道路標識の写真（雨天時にパワーポイントも）
ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

- ヘルメット・反射剤・止まれ・飲酒
- 夜はライトつけます。
- 踏切歩いてというの、知らなかった。
- 踏切渡るとき、右左を見て、自転車を押して渡る。



学習者からこんな日本語ができました

- この標識は何ですか。
- ここは自転車大丈夫です。
- 中国では小さいバイク(原付)は大丈夫
- これは？美容室？



こんな日本語を伝えました

- 自転車の道はここで終わります。
- ここは自動車は入れません。
- これは床屋です。



次のことばを説明しました

軽車両は除く・自転車専用・一方通行



ここがポイント

- 街を歩くと、普段、日本人も見落としている標識に気づくことができます。
- 街歩きの途中で、店の看板を見て話したりすることで、住んでいる地域について知ることもできました。
- 学んだことを実際に検証する活動は、まさに「行動・体験型」ですね。

活動6

グループで感想を伝え合う

これまで学習した内容をふり振り返り、普段の自分の乗り方、母国との違い等について発表しました。



学習者からこんな日本語ができました

- 自転車と歩行者この道いいです。
- 道に店たくさんあります。
- ワンウェイです。
- ブラジルでは自転車少ない。
- 事故に遭ったことがあります。



こんな日本語を伝えました

自転車専用の道です。



こんなことばを説明しました

原付・横断歩道

確認3

今日学んだことをふりかえる

ワークシートに記入後、一人ずつ、今日の感想を言いました。



用意したもの

ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

これから交通ルール守ります。



ここがポイント

行動・体験型の活動を「今回だけのイベント」として終わらずに、いろんな形で繋げていけるといいですね。例えばこの教室では、次のように繋がっていきましました。

- 今回学んだ内容を、後で家族や友だちに伝えた学習者がいました。
- ・中国の男の子（日本に来たばかり）：お母さんに自転車の話をした。お母さんは、いつも自転車に乗っているから。
- ・ベトナムの女性：ご主人と道を歩いているときに、標識を見ながら、勉強したことについて話をした。
- ・別のベトナムの女性：ご主人と自転車の話をした。ご主人から別の交通ルールも教えてもらった。

- 今回参加できなかった学習者のうち、普段自転車に乗っている方達へ、同じ教材を使って、同じ活動をしました。

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- 日本語ゼロの学習者にはどうしてもマンツーマンに近い形をとらざるを得ない（イラストを多用し視覚から理解してもらおうと試みたが）。媒介語にも頼ってしまう。そうでなければ、内容を理解してもらえない。日本語も覚えてほしいので、難しい…。
- 外部講師に依頼する時は、事前打ち合わせが必須。（「小学校低学年向けに話すような感じで」とお願いした）



ここがポイント

専門的過ぎることばを使わないようにという趣旨で「小学校低学年」という依頼をしたと思いますが、「地域で使われている日本語を学ぶ」という意味では、子ども向けのことばにしすぎない方がいいかもしれません。⇒P.3



大切だと思ったこと

- ふりかえり（確認作業）をすることにより、学習者が再確認したり、理解できたりする。
- 学習者間でのコミュニケーション。一緒に勉強して楽しい！という雰囲気を作ることができる。
- 活動の中で、日本語で発言できるような工夫が必要。



ここがポイント

この教室では、若いボランティアが活躍しています。次世代のボランティアを育てることは日本語教室の課題です。

4 自転車のルールを知ろう 活動案

テーマ／目標	自転車のルールを知る／自転車に安全に乗ることができる		
テーマ決めの経緯	今年の春、自動車対自転車の事故が発生した。そこで、これを機会に法改正後の自転車のルールを理解してもらう。また、安全に自転車に乗るために標識や路面のマーク、それに付いている日本語を見て分かるようにすることをねらいとした。		
活動場所	ふくらの家	布袋北部地区学習等供用施設	ふくらの家
協力者	—	江南自動車学校、江南警察署	—

1日目：10月21日(金) 10：00～11：30 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1（30分） 「自転車は軽車両」を知る	事故の動画	自転車の乗り方を知らないと起こりうる交通事故についての動画を鑑賞 ・メモを取りながら視聴。 ・内容が理解できたか？ 自転車＝車が理解できたか？
活動2（40分） 自転車のルールを知る	クイズシート 絵カード	クイズ形式で自転車の交通ルールについて問題を出す（学習者同士orボランティアと話し合いながら）
確認1（20分） ふりかえり	ふりかえりシート	何が分かったか、分からなかったか、覚えた言葉、感想

2日目：10月23日(日) 10：00～12：20 (140分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動3（120分） 自転車の安全な乗り方を知る	—	江南自動車学校と江南警察署の方より、自転車の安全な乗り方について講演してもらう ・学習者は、メモを取りながら講演を聞く。 ・学習者とボランティアは予めペアを組み、学習者をフォロー。
確認2（20分） ふりかえり	ふりかえりシート	何が分かったか、分からなかったか、覚えた言葉、感想 ・昼食（交流会）の前に、シートに記入。

3日目：10月28日(金) 10：00～11：30 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動4（50分） 道路標識や路面マークを見て分かるようになる	道路標識や路面マークの写真 クイズシート	1. 実際に近所を回り、標識やマークを見て確認する。 2. 教室に戻り、クイズ＆簡単な説明。
確認3（40分） ふりかえり	ふりかえりシート	この活動で学んだことを話し合う、感想

自転車のルールを知ろう

江南市国際交流協会ふくらの家

★テーマを決めた背景

小学生が自動車と事故 ⇨ 自転車も悪いんだ
改正されたルールを知らない人が多い!!



★対象

ワイワイ日本語の生徒 ( バトナム,  モンゴル,  フィリピン,  中国 etc)

1 このまでに覚えた言葉

日
目



事故の動画



交通安全教育DVD「保護者編」chapter1

〇×クイズ

こわい!
危ない!



中国は
自転車
右!!

2
日
目

自転車講習会 (講師: 江南警察署の方・自動車学校の方)

シミュレーション体験



わからん!

むずかしい!!



ベトナム4人乗りOK

3
日
目

散歩しながら標識の意味を学ぶ

標識とは?

散歩



ふりかえり&対話(グループ別)



この標識は何ですか?



この標識は自転車だけじゃなくても通るけど、この間習ったことだ!



ベトナムはここに店がたくさんあります

★学習者の感想

- ・友だちや家族に今回学んだことを話した
- ・これから気をつけようと思う
- ・これから交通ルールを守ります etc

★ボランティアの感想

- ・学習者にとって、日本語もルールも学べる良い機会だった
- ・皆楽しく勉強できたのが良かった

★今後の課題

- ・日本語ゼロの人に対してどんな工夫ができるか
- ・対話をもっと取り入れたい

5.人を助ける

教室名 : あかさたな日本語教室
 教室開催日 : 木曜日 10:30~12:00
 学習者の国籍 : オーストラリア、アメリカ、韓国 等
 レベル : 初級後半から中級まで

参加学習者 : 6名 (オーストラリア1名、アメリカ2名、韓国2名、台湾1名)
 ボランティア : 5名
 外部協力者 : 3名 (中消防署)

学習者の状況

- 国でも日本でも、救急車を呼んだ経験はない。
- 救急車を呼ぶときに、電話で119番を押すことを知らない。
- 一人だけ、母国でAED講習を受講した経験がある。
- ほとんどの人は、心肺蘇生をしたことも、AEDを使ったこともない。

学習者の声

- AEDの使い方を知りたい。
- 119番通報をしても、日本語でやりとりができない。

目 標

心肺蘇生ができるようになる。

活動の流れ

1日目: 9月29日(木) 10:30~12:00 (90分)		
活動1	30分	救急車をどんな時に呼ぶか考える
活動2	20分	救急車を呼べる
活動3	10分	救急車が来るまでに何ができるか考える
確認1	30分	今日学んだことをふりかえる
2日目: 10月6日(木) 10:30~12:30 (120分)		
活動4	90分	AEDと心肺蘇生講習を受講する
確認2	30分	今日学んだことをふりかえる
3日目: 10月13日(木) 10:30~12:00 (90分)		
活動5	30分	3日間をふりかえる
活動6	30分	学習したことは何かを整理する
活動7	15分	学んだことを人に伝える
確認3	15分	今日学んだことをふりかえる

事前の準備・下調べ

- 中消防署へ出向き、担当者と打合せをする。その際、DVDを借り、ボランティアが各自視聴する。
- 昭和消防署内の応急手当研修センターでの講習を、事前にボランティア4人で受講する。

活動1 救急車をどんな時に呼ぶか考える

1. 救急車をどんな時に呼ぶか、ペンで付箋紙に書き、B4用紙に貼りました。
2. B4用紙に貼ったものを一人ずつ発表しました。



用意したもの

大きめの付箋紙、ペン、
B4用紙



学習者からこんな日本語ができました

救急車って何ですか。



次のことばを説明しました

- 意識がありません。
- 救急車
- 骨が折れました。
- 頭をぶつけました。
- 食べ物がつまる。

活動2

救急車を呼べる

1. 救急車を呼ぶとき、何番に電話をするのか確認しました。
2. 119番通報をした際に聞かれる内容を予想しました。
3. ボランティアが吹き込んだ音声を聞いて、確認しました。
4. 119番のオペレーターにどのように答えるか、ペンで付箋紙に書きました。



用意したもの

119番のオペレーター
を模した音声、オペ
レーターのイラスト、
大きめの付箋紙、ペン



学習者からこんな日本語ができました

どんな時に119番をしますか。



こんな日本語を伝えました

119番にかけるのは、火事と救急車
のときです。



次のことばを説明しました

通報・火事

活動3 救急車が来るまでに何ができるか考える

119番通報をした後、何ができるか、話し合いました。

用意したもの

心肺蘇生・AED
のイラスト

確認1

今日学んだことをふりかえる

1. 新しく覚えた言葉や難しかった言葉を紙に書きました。
2. 質疑応答をしました。



用意したもの

ふりかえりシート

活動4 AEDと心肺蘇生講習を受講する

1. 緊急救命の一連の流れがわかるDVDを見ながら、消防署員の話听取了。
2. 人形を使って、心肺蘇生・AEDの体験をしました。



用意したもの

マイク
パンフレット
パソコン

確認2

今日学んだことをふりかえる

ふりかえりシートに今日覚えた言葉、文、感想を記入しました。



学習者からこんな日本語ができました

触ってはいけない時はどんな時ですか。



次のことばを説明しました

- ひざ・むち打ち
- 蜂に刺される
- 意識がない



学習者からこんな日本語ができました

- 不要って何ですか。
- 継続って何ですか。



こんな日本語を伝えました

- 要らないという意味です。
- 続けてくださいという意味です。



次のことばを説明しました

- 胸骨圧迫
- 大丈夫ですか？
- 離れてください。



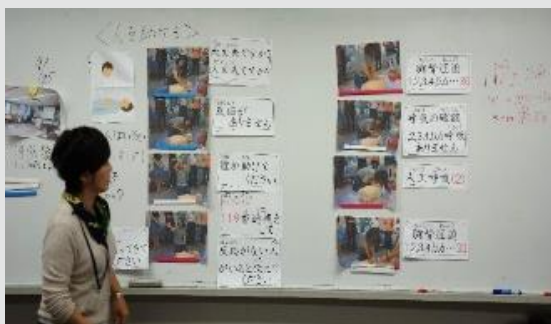
ここがポイント

学習者の中のムードメーカーになる人を上手く活用し、楽しく学ぶことができました。様々な学習者の個性を活かせるといいですね。

活動5

3日間をふりかえる

1. 先週の活動の写真を使い、手順を確認しました。
2. AEDの音声、心肺蘇生時の呼びかけや他の人とのやりとりなどの日本語を確認しました。



用意したもの

心肺蘇生・AEDの
イラスト
先週の活動の写真



学習者からこんな日本語ができました

水気って何ですか。



次のことばを説明しました

反応・交代・電源・装着・点滅
接続・心電図・解析中



ここがポイント

写真などを見ながらふりかえりをする
ことで、前回休んだ人も内容を理解で
きるように配慮することが大切です。

活動6 学習したことは何かを整理する

学んだ中で伝えたいことを、ポスターにまとめました。



用意したもの

はさみ、のり
先週の活動の写真
模造紙、ペン



学習者からこんな日本語ができました

心肺蘇生の階段（順番）がわかった。



ここがポイント

ポスターをつくるという作業をみんな
ですと、書くことが苦手な学習者も、
教えてもらいながら、書いてみるきつ
かけになります。

活動7

学んだことを人に伝える

他のクラスの学習者・ボランティアの前で、ポスター発表をしました。



学習者からこんな日本語ができました

- この方法を知らなかったです。
- ちゃんとやらないとムダになりますよね。
- (AEDや心肺蘇生を行うと、)この人は大丈夫になります。



ここがポイント

学んだことを他の人に日本語で伝えることは緊張しますが、難しい言葉も何回も口にする事で定着します。

確認3

今日学んだことをふいかえる

1. 新しく覚えたことばや難しかったことばを紙に書きました。
2. 質疑応答をしました。



用意したもの

ふりかえりシート



学習者からこんな日本語ができました

貼り薬はなんですか？

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- 消防署員との質疑応答の時間をもう少し設ければよかったと思う。
- 積極的に学習者が参加していて、よかったと思う。
- 学習者が漢字をたくさん書いていて驚いた。
- 時間配分に配慮をした方がいい。
- 学習者とボランティアの配置（座る位置）に配慮をした方がいい。
- ボランティア内の意思疎通がもっと必要だった。
- 意見交換、質疑応答の時間は、学習者にとってとても役立つことだと思った。



大切だと思ったこと

- 関わるボランティア全員で、活動目的や内容、役割などの事前打ち合わせを
しっかりすること。
- 消防署員との事前打ち合わせを密にし、説明の内容を絞り込んでもらうこと。

5 人を助ける 活動案

テーマ／目標	人を助ける/心肺蘇生ができるようになる		
テーマ決めの経緯	家族と自分の命を助けなければならない場面で、慌てず、冷静に対応できるよう必要な日本語を知る必要があると考え、教室のスタッフミーティングで決定した。		
活動場所	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ
協力者	—	中消防署	—

1日目：9月29日(木) 10：30～12：00 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1（30分） 救急車をどんな時に呼ぶのかを考える	症状や人体のイラスト・カード	1. 今どこか悪いところがあるか。 2. 救急車を呼んだ体験談を話し合う。何をしたか。 3. 救急車を呼ぶのはどんな時か。
活動2（20分） 救急車を呼べる	119番の音声	1. 119番の人からの質問を聞き、シミュレーションする。 2. よく使う単語は何か。
活動3（10分） 救急車が来るまでに何ができるのか考える	AEDの写真 心肺蘇生の写真 またはイラスト	1. 意見を言ってもらう。 2. 何が正しいかは次週確認。
確認1（30分） ふりかえり	ふりかえりシート	ふりかえりシートにわかったこと、わからなかったことを記入し、発表する。

2日目：10月6日(木) 10：30～12：30 (120分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動4（40分） AEDと心肺蘇生講習を受ける	パソコン スクリーン マイク 見学者用資料 ワークシート	1. 緊急救命の一連の流れがわかるDVDを見ながら、消防署員の話を聞く。 2. デモンストレーションしていただいたあと、人形を使って実際に体験する。
確認2（30分） ふりかえり	ふりかえりシート	ふりかえりシートにわかったこと、わからなかったことを記入し、発表する。

3日目：10月13日(木) 10：30～12：30 (120分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動5（30分） 2日間のふりかえり	心肺蘇生の写真 ワークシート	1. 心肺蘇生の写真を使い、並べ替えクイズで手順確認。 2. 119番通報の復習。 3. 体験してわかったこと、わからなかったこと、感想を発表。
活動6（60分） 学習したことは何か整理する	講習会の時の写真 画用紙	ポスター作り。
活動7（15分） 他の人にわかったことを伝える	—	ポスター発表。（他クラスの学習者に）
確認3（15分） ふりかえり	ふりかえりシート	ふりかえりシートにわかったこと、わからなかったことを記入し、発表する。

テーマ：人を助ける

テーマを決めた経緯：

家族と自分の命を助けなければならない場面、慌てず、冷静に対応できるような日本語を知る必要があると考え、このテーマに決めました。

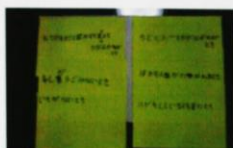
ALOE日本語教室あかさたな

・教室開催日：毎週木曜日10:30～12:00

・場所：あいち国際プラザ

1日目 救急車をどんな時に呼ぶか考える

救急車をどんな時に呼ぶか、ペンで付箋紙に書き、発表しました。



・119番通報をした際に聞かれる内容を予想し、ボランティアが吹き込んだ音声を聞いて確認しました。



・119番のオペレーターにどのように答えるのか、ペンで付箋紙に書き、ボランティアとペア練習しました。

2日目 AEDと心肺蘇生講習を受講する

中消防署から3名の消防署員が来てくださいました。

- ・緊急救命の一連の流れがわかるDVDを見ながら、消防署員の話の聞きました。
- ・人形を使って、心肺蘇生・AEDの体験をしました。



3日目 3日間の振り返り

- ・前回の活動の写真を使い、手順を振り返りました。
- ・AEDの音声、心肺蘇生時の呼びかけや他の人とのやりとりの日本語を確認しました。



ポスターを作り、発表しました。



学習者の声

- ・119番通報の仕方がわかった。
- ・生活にすぐ役に立つと思います。
- ・救急の時のいろいろな言葉を習うことができました。

活動を終えて

- ・協力者に依頼する際に公的機関を通さなかったため、協力者に強くお願いができなかった。
- ・この研修に参加したボランティアが、今後教室でどのように実践していくかが課題である。

6. AEDを使えるようになろう

教室名：日本語教育リソースルーム

(常設の教室はない)

※既に決まったカリキュラムがある継続的な日本語教室では新たに「行動・体験型活動」を組み込むのは難しいという声もあり、教室を持たない(公財)愛知県国際交流協会のリソースルームが、モデル的に単発で行動・体験型の教室活動を実施しました。

参加学習者 : 9月3日 3名(ベトナム2名、中国1名)、9月6日 1名(ミャンマー1名)

ボランティア : 9月3日 5名、9月6日 8名

外部協力者 : 9月3日 1名、9月6日 2名(日本赤十字社愛知県支部)

学習者の状況

- ベトナム人2名は名古屋に引っ越してきたばかり。
- 中国人は配偶者が日本人
- 日本語の発話が難しい。
- 学習者は初級後半レベル

学習者の声

AEDの存在は知っているが、使い方や設置場所はわからない。

目 標

- 緊急の場面で人の助けを呼べるようになる。
- 心肺蘇生ができるようになる。
- AEDを使えるようになる。

活動の流れ

1日目：9月3日(土)・6日(火) 13:00～16:00 (180分)		
活動1	35分	人を助ける重要性を知る
活動2	10分	AEDとは
確認1	10分	わかったことを確認
＜休憩＞10分		
活動3	70分	心肺蘇生講習(含AED講習)
確認2	10分	ワークシート記入
＜休憩＞10分		
確認3	45分	ふりかえり 気付いたことを話す

※ 9月3日と6日は同じ内容で実施した。

事前の準備・下調べ

- AED についての基礎知識をつけておく。
- 協力者との打合せを行う。
- アイスブレイク用の人体パズル、ネームカード作成、その他の準備も兼ねたミーティングを行う。

活動1 人を助ける重要性を知る

1. アイスブレイクとして、名前・国・好きな動物を書いた名札を作り、自己紹介をしました。
2. 人体パズルゲームで臓器の位置を考えました。
→日本赤十字社より解説を受けました。
3. 倒れている人のイラストを見て、その時どうするか考えました。



用意したもの
パソコン
人体イラストとパズル
倒れている人のイラスト



次のことばを説明しました

肺・心臓・胸骨



ここがポイント

初めてくる学習者がいる場合はアイスブレイクで、簡単な自己紹介ができると、後の活動がやりやすくなります。

活動2

AEDとは

1. AEDの写真を見て、AEDを見たことがあるか、どこで見たかを話しました。
2. いろいろな場所にAEDがあることを知りました。



用意したもの
AEDの写真
(街に設置してあるもの)



学習者からこんな日本語がでました

病院・コンビニ



次のことばを説明しました

AED・学校・スーパー・駅・マンション



ここがポイント

会場の施設にはAEDが備え付けられていたので、実際に見にいきました。写真だけでなく、実物を見ることが大切です。

確認1

わかったことを確認

1. 人体とAEDについてわかったこと、わからなかったことを確認しました。
(グループ別で話し合い、全体発表、共有)
2. AEDの音声を少し流し、休憩後にやることを聞きました。

用意したもの

ワークシート

活動3

心肺蘇生講習(含AED講習)

1. パワーポイントの資料を見ながら、心肺蘇生法やAEDについての解説を聞きました。
2. 人形等を使用しながら、胸骨圧迫や人工呼吸、AEDの体験をしました。



用意したもの

プロジェクター
スクリーン、マイク
ワークシート

確認2

ワークシート記入

ワークシートに、わかったことやわからなかったことを記入しました。



用意したもの

ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

- 「赤十字」はミャンマーにもある。
- 忙しい。(胸骨圧迫や人工呼吸が大変だということ)



次のことばを説明しました

- 心肺蘇生・胸骨圧迫・人工呼吸・赤十字
- 誰か来てください。
- AEDをもってきてください。
- 119番に電話してください。



ここがポイント

救命は一人では難しいので、周囲の人と協力することが大事です。日本人も外国人も声を掛け合う、一緒に対処する練習です。



学習者からこんな日本語ができました

- 面白かった。
- 初めて。
- AED、使い方がわかった。

確認3 ふいかえり 気付いたことを話す

1. 講習の写真をしながら、流れをふりかえりました。
2. 命を助けるためにできることやわかったこと、わからなかったことをワークシートに書き出して、ひとりずつ発表しました。（3日はワークシートだけではなく模造紙を使って発表しましたが、6日は学習者が1名だったため、口頭のみで発表しました。）



学習者からこんな日本語ができました

- 大事なこと、わかりました。
- 警察に(を)よぶ。
- 1 1 9 番に電話。



ここがポイント

難しい漢字が読めなかったりしても、実際にAEDを使用した経験が自信になります。

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- 知っているつもりだが、何回も体験した方が良い。
- 用語が難しいので大変。
- 学習者がとてもできるようになって感動した。
- 今回は日本語が比較的できる学習者だったが、そうではない場合どうするか。
- 事前申込がなかった学習者が突然来た場合、どのように対応するか。



大切だと思ったこと

- 心肺蘇生講習の時に体を動かしたりかがんだりするので、「動きやすい服装」等の情報を事前にお知らせしておいた方がよかった。
- 日本語教室においても、また実際にAEDを使用する際にも、地域や周りの人との連携が大切。

6 AEDを使えるようになろう 活動案

テーマ／目標	「AED」使い方を知ろう／「AED」を使えるようになる
テーマ決めの経緯	運動会で倒れた児童に対してAEDの使用を躊躇したために、助けられなかったという悲劇がありました。AEDの使い方を知っていれば、救える命がある。命を守るために必要な日本語を学ぶことをねらいとした。
活動場所	あいち国際プラザ
協力者	日本赤十字社愛知県支部

1日目：9月3日（土）・6日（火）13：00～16：30（210分）※同内容を2日間実施		
活動のねらい	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1 人を助ける重要性を知る	パソコン 人体イラストとパズル 倒れている人のイラスト	1. アイスブレイク「名札を作ろう」 2. 人体パズルゲームで臓器位置を確認 3. イラストを見てグループ別で、その時どうするかイメージし発表、共有
活動2 AEDとは AED用語	AEDの写真 （街に設置してあるもの）	1. AED写真を見て、見たことあるか、グループ別で話し合う 2. 用語について
確認1	ワークシート	人体とAEDについてわかったこと、わからなかったことを確認（グループ別で話し合い、全体発表、共有）
活動3 心肺蘇生講習 （含AED講習）	プロジェクター スクリーン マイク ワークシート	1. 外部協力者による心肺蘇生講習 2. 体験
確認2	ワークシート	わかったこと、わからなかったことを記入 ※ボランティアはデモンストレーション中の学習者の発話（疑問、質問等）をメモ
活動4 ふりかえり 心肺蘇生（含AED） 講習での気づき等	活動3時の様子の写真	1. 活動時の写真を見ながら流れを振り返る 2. グループでスキット（必要5用語） 3. グループ別でわかったこと、わからなかったこと
確認3	ワークシート	1. わかったこと、わからなかったことを記入 2. 全体発表、共有

AEDを使えるようになろう

目標

- ・緊急の場面で人を呼べるようになる
- ・心肺蘇生ができるようになる
- ・AEDが使えるようになる



あいち国際プラザ
日本語教育リソースルーム

開催日 2016年9月3日（土曜日）13:00～16:00
2016年9月6日（火曜日）13:00～16:00

参加者 学習者 4名（ベトナム ミyanmar 中国）
ボランティア 13名
外部協力者 3名（日本赤十字愛知県支部）

一時限目

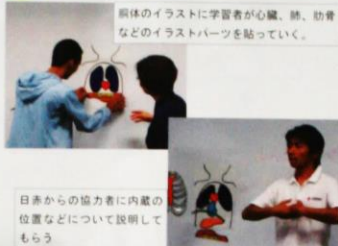
活動1 アイスブレイク【自己紹介】

名札に「名前」と「好きな動物」を書き、ボランティアと協力者と一緒に輪になって自己紹介



活動2 人体バズル

原体のイラストに学習者が心臓、肺、肋骨などのイラストパーツを貼っていく。



日本からの協力者に内臓の位置などについて説明してもらう

活動3 AEDを知っていますか？

①人が倒れているイラストを見て、自分ならどうするかを考え、話し合う。



②街中に設置してあるAEDの写真を見て、どんなものか話し合う。



二時限目

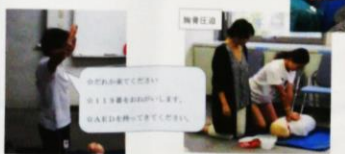
活動1 心肺蘇生とAEDについて学ぶ

協力者（日本赤十字社）から心肺蘇生の重要性と方法、AEDの使い方について話を聞く。



活動2 心肺蘇生の実践

人体模型を使って、胸骨圧迫、人工呼吸、AEDの体験をする。



人工呼吸



AEDを準備する



AEDを装着する



AEDを使う



三時限目

活動1 体験を振り返る

活動時の写真を見ながら、心肺蘇生とAEDの流れを振り返る



活動2 体験の定着

学習者だけで一連の流れを繰り返す



グループで話し合い、まとめたことを紙に書いて発表する



実践を終えて

- 【ボランティアの感想】
- ・知っているつもりだが、何回も体験した方がよい
- ・用語が難しいので大変

- 【大切だと感じたこと】
- ・倒れている人がいたら、見過ごさない（無関心でない）
- ・早い119番通報
- ・一人で背負わず、協力者を集める
- ・善気善意で助けに行く
- ・連携が大切



7.地震について知ろう

教室名 : あいち国際プラザにほん語教室
教室開催日 : 金曜日 19:00~20:30
学習者の国籍 : 中国・アメリカ・ミャンマー・ブラジル
モンゴル・台湾・ウクライナ
レベル : 入門から初級、中級が多く、上級者もいる

参加学習者 : 7名 (中国、アメリカ、ミャンマー、ブラジル、モンゴル、台湾、ウクライナ)
ボランティア : 7名
外部協力者 : 1名 (愛知県防災局防災危機管理課)

学習者の状況

地震を知らない国の方もいる。

学習者の声

日本では地震が多いが、最近の名古屋では小さな地震のみ。

目 標

地震を知り、地震に備えることができる。

活動の流れ

1日目: 9月23日(金) 19:00~20:30 (90分)		
活動1	60分	地震について知る
確認1	30分	わかったこと、思ったことを発表
2日目: 9月30日(金) 19:00~20:30 (90分)		
活動2	60分	地震の備えについて知る
確認2	30分	わかったことを発表する
3日目: 10月7日(土) 19:00~20:30 (90分)		
活動3	20分	第三者への情報提供ができる
活動4	70分	地震について発表する

事前の準備・下調べ

- 地震の映像を準備する。
- 愛知県防災局との打合せを行う。
- 防災カード等の用意をする。

活動1

地震について知る

1. 名前・国・好きな食べものを書いた名札を作り、自己紹介をしました。
2. 地震の動画を見ました。
3. 動画を見た感想を話しました。
4. 地震が起こった時にとる行動として、机に潜る練習をしました。
5. 地震への備えについてボランティアと話しました。
6. 教室の最寄りの非常口の場所を確認しました。



用意したもの

パソコン、ペン
紙、クリップ

確認1 わかったこと、思ったことを発表

ワークシートに今日の活動でわかったこと、思ったことを記入し、発表しました。



用意したもの

ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

- びっくりした。
- この日のことは忘れないよ。
- ほんとに怖いですね。



こんな日本語を伝えました

頭を守る



次のことばを説明しました

家具の固定・非常口・備蓄



ここがポイント

実際に起きた映像を見る、身体を使って体験することは記憶に強く残ります。



学習者からこんな日本語ができました

- 地震はこわい。びっくりした。
- もぐるということばを覚えた。



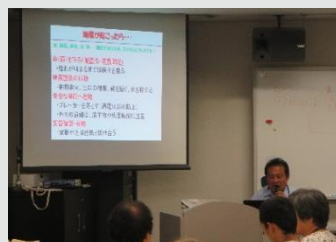
こんな日本語を伝えました

もぐる・おさまる

活動2

地震の備えについて知る

愛知県防災局の県政お届け講座（出前講座）を聞きました。（家具の固定、備蓄品など）



用意したもの
パソコン
プロジェクター
ルビをふった資料

確認2

わかったことを発表する

ワークシートにわかったこと、思ったことを記入し、発表しました。



用意したもの
ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

- 防災具はどこで買えますか？
- 家具の固定具はどこで買うことができる？



次のことばを説明しました

- 家具の固定・食糧の備蓄
- ローリングストック
- 171・災害用伝言ダイヤル
- 日本は地震大国。
- 自分の身は自分で守る。



ここがポイント

外部協力者の中には外国人に話すことが初めてという方もいます。話が長くなったり、難しい言い回しになったりしますが、そういう時こそボランティアの出番。そばにいて、わかりやすい日本語でサポートすると、学習者は理解しやすくなります。



学習者からこんな日本語ができました

- ことばはわからないけど、意味はわかりました。
- 食糧の備蓄、買います。
- 家具の固定、わかりました。
- 愛知県は大きい地震がなつかしいから大きい地震がくる。(大地震がしばらく起こっていないから、大地震が起こる可能性が高いということ)
- 準備なことは(地震に備えることは)、大切なことです。
- 家具の上は、ものは置かない。
- 今日のテーマは重要です。



ここがポイント

初級者が多いと、用意された題材を消化しきれないこともあります。学習者に伝えたい内容を絞って、話し合う時間を多くすると、個々の力に合った活動ができます。

活動3 第三者への情報提供ができる

1. (公財)愛知県国際交流協会発行の防災チェックガイド（多言語版）裏表紙にある防災カードに、災害時にすぐ提示できるよう、自分の情報を記入しました。
2. 前回の講座のアンケートを記入しました。
3. 災害ダイヤルのかけ方を学びました。



用意したもの

防災チェックガイド
県政お届け講座のアンケート



学習者からこんな日本語ができました

- 災害ダイヤルの案内の言葉が解らない。
- 町内会はなに？
- 防災の練習参加したことなかった。
- 固定はなに？
- 頭を守る。



次のことばを説明しました

防災カード・ハザードマップ
非常用食糧・町内会・避難場所

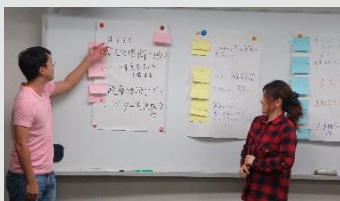


こんな日本語を伝えました

地震のときは、エレベーターを使わない。

活動4 地震について発表する

地震についてわかったこと、地震に備えてこれから準備したいことを発表しました。



用意したもの

ワークシート、模造紙
付箋、マジックペン



学習者からこんな日本語ができました

逃げるのが大切。



ここがポイント

- 皆の前で日本語で発表する経験はあまりないので、これもいい体験です。さらに、家族や知り合いの外国人にも防災について伝えられます。
- 夜の教室はボランティアも学習者も仕事後で忙しそうですが、お互いの笑顔や何気ない一言で和やかな雰囲気になっています。参加したくなるような教室の雰囲気作りも大切なことです。

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- ボランティア間の打ち合わせがもっと必要。
- まず日本語が解らないと理解が難しい。
- 学習者の参加数が多く良かった。
- わかってほしいことが学習者に伝わっていた。



大切だと思ったこと

- まず、下準備が大切。
- 学習者の日本語の理解度にあわせ解りやすく行う。



ここがポイント

日本語がわからない学習者が、日本社会で安心して暮らしていけるためにどうすればいいか、地域の日本語教室の役割を考えるいい機会ですね。

7 地震について知ろう 活動案

テーマ／目標	地震について知ろう／地震に備えることができる		
テーマ決めの経緯	日本は地震が多いので、外国から来た人が地震を知り備えることができるようにする。クラスのボランティア全員で話し合い決定した。		
活動場所	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ
協力者	—	愛知県防災局 防災危機管理課	—

1日目：9月23日(金) 19：00～20：30 (90分)		
活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1（60分） 地震について知る	写真 動画	1. アイスブレイク（自己紹介） 2. 地震の写真・動画を見る 3. 見た感想を話し合う 4. 自分の国の地震について発表する 5. 地震発生時の対処法を体験する
確認1（30分）	—	動画を見てわかったこと、思ったことを発表する

2日目：9月30日(金) 19：00～20：30 (90分)		
活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動2（60分） 地震への備えについて知る	—	家具の固定、食料の備蓄等について説明を聞く
確認2（30分）	—	今日の活動をふり返り、わかったことをまとめ発表する

3日目：10月7日(金) 19：00～20：30 (90分)		
活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動3（20分） 災害時に第三者への 情報提供ができる	防災カード	.防災カードの説明をし、記入をする
確認3（70分） 地震についてわかった ことを伝える	模造紙 付箋 マジックペン	地震についてわかったことを付箋に書いて模造紙に貼り、 発表する

地震について知ろう

場所: あいち国際プラザ

あいち国際プラザ

日時: 金曜 19:00~20:30

日本語教室金夜クラス

活動1 地震について知る

- ① 地震の動画を見て感想を話し合う
- ② 地震発生時の対処法を体験する



非常口

机の下に
"もぐる"



活動2 地震への備えについて知る

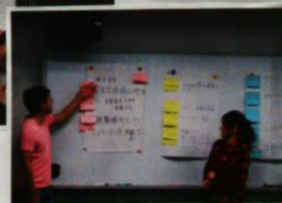
- ① 家具の固定、食料の備蓄について説明を聞く
(協力者: 愛知県防災局防災危機管理課)



活動3 災害時に第三者への情報提供ができる

- ① 防災カードの説明をし、記入する

防災カード



ふりがえり

- ・言いたい事が伝わった(頭を守る)・"もぐる"も知った
- ・家具の固定がわかった・協力者との事前打合せが足りなかった

8. 地震に備える

教室名 : にほんごひろば

教室開催日 : 木曜日 10:00~11:30

学習者の国籍 : ベトナム、韓国、フィリピン、中国、インド

レベル : 入門から初級前半と中級が多く、上級もいる

参加学習者 : 1日目8名、2日目5名、3日目6名 (ベトナム、韓国、フィリピン、中国、インド)

ボランティア : 1日目10名、2日目10名、3日目11名

外部協力者 : 2日目1名 (あいち防災リーダー)

学習者の状況

地震の恐怖は感じているものの、ほとんど備えをしていない。

学習者の声

地震に関する情報を知りたい。

目 標

地震が起きるとどうなるかを知り、具体的な備えができるようになる。

活動の流れ

1 日目 : 9月15日(木) 10:00~11:30 (90分)		
活動 1	45分	地震が起きるとどうなるかを知る
活動 2	15分	各自の避難所を知る
確認 1	30分	今日学んだことをふりかえる
2 日目 : 9月29日 (木) 10:00~11:30 (90分)		
活動 3	5 分	前回の活動をふりかえる
活動 4	55分	防災についての講習を聞く
確認 3	30分	今日学んだことをふりかえる
3 日目 : 10月6日(土) 10:00~11:30 (90分)		
確認 4	25分	これまでの活動をふりかえる
活動 5	35分	ポスターを作成し、発表する
活動 6	30分	非常食を食べてみる

事前の準備・下調べ

- 学習者が住んでいる安城市、刈谷市、知立市発行のハザードマップを入手する。
- 安城市危機管理課で防災DVDを借りる。
- 以前から面識のあった「あいち防災リーダー」に防災講習を依頼し、打合せをする。
- ボランティア同士の打合せをする。
- 今回の特別授業のチラシを学習者およびその知り合いに配布し、学習者を募集する。
- 当日使用する資料を作成する。
- 使用機器（プロジェクター、マイクなど）の手配をする。

活動1 地震が起きるとどうなるかを知る

1. ハザードマップの「地震が起きるとどうなるの？」を見ながら、絵と文字で地震について学びました。
2. 防災DVDを見て、映像でさらに理解を深めました。



用意したもの

ハザードマップ
防災DVD、マイク
プロジェクター
スクリーン
ワークシート

活動2

各自の避難所を知る

1. ハザードマップの地図上で、自宅の場所にシールを貼りました。
2. 学習者の自宅からの最寄りの避難所を探し、シールを貼りました。



用意したもの

ハザードマップ
シール



学習者からこんな日本語ができました

- 言葉が難しい。
- 怖い。
- 171はなんですか？
- 液状化はなんですか？
- （地震が起きると）パニック。



次のことばを説明しました

地震・ブロック塀・液状化現象
地盤が緩い・高い場所・電線・津波
非常袋・避難準備・火を切る
ブレーカー・緊急地震速報・避難所
命を守る・停電・警告



こんな日本語を伝えました

- 災害用伝言ダイヤルは171です。
- 避難場所を確認しましょう。
- 防災用品を準備しておきましょう。



ここがポイント

進行役以外のボランティアも、活動の内容に沿って学習者を補助することができました。ボランティア間の打ち合わせは、活動上欠かせません。



学習者からこんな日本語ができました

（地図で）自分の家がなかなか見つからなかった。

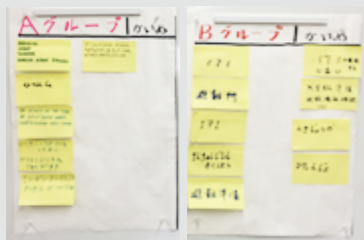


こんな日本語を伝えました

避難所と避難可能施設は違う。

確認1 今日学んだことをふりかえる

1. 今日の活動でわかったことを付箋に書きました。
2. 付箋に書いたことを、ひとりずつ発表しました。
3. 教室全体を2つのグループに分けて、グループ毎に模造紙に付箋を貼りました。



用意したもの

付箋、模造紙
マジックペン



学習者からこんな日本語ができました

- 心構えをしておく。
- 机の下に隠れるべきです。
- パニックにならない。
- たべものとみずもよいします。

活動3 前回の活動をふりかえる

進行役ボランティアから、前回の概要を聞きました。



用意したもの

ハザードマップ
ワークシート

活動4

防災についての講習を聞く

1. 防災の専門家を講師に迎え、パワーポイントで地震についての写真や動画を見ながら、説明を聞きました。
2. 被災時に多用途に使えるゴミ袋を使って、雨よけマントを作りました。
3. 講師自身の非常用持出袋を見せてもらいました。



用意したもの

ゴミ袋（マント用）
マイク、スクリーン

確認3

今日学んだことをふいかえる

1. 今日の活動でわかったことを付箋に書きました。
2. 付箋に書いたことを、ひとりずつ発表しました。
3. 教室全体を2つのグループに分けて、グループ毎に模造紙に付箋を貼りました。



用意したもの

付箋、マジックペン
模造紙



学習者からこんな日本語ができました

- なぜ長靴がよくないか？
- なぜ杖をついていくのか？
- 日本のビルの耐震は震度いくつまで耐えられるか？



こんな日本語を伝えました

- 長靴は脱げてしまう。
- 運動靴の方が歩くことができる。
- 避難所と一時避難所は違う。



次のことばを説明しました

ピッチFM・シェイクアウト



学習者からこんな日本語ができました

- 地震のとき起きます。準備します。頭と足を守ります。
- 地震のとき、水は大事。
- 地震のとき、運動靴をはきます。

確認4

これまでの活動をふりかえる

防災知識としての定着のため、1日目と2日目の活動で学習者から出た「わかったこと」について復習しました。

地震（じしん）について わかったこと	
	Aグループ
1かいめ	ひなんじょ
	HINANJOYO
	JISHIN
	TSUNAMI
	KINKYU JISHIN SOKUHO
	Be ready all the time. We don't know when earthquake will come.(いつでも じゅんぎをしておく。じしんは いつくる か わかりません)
	いつも ころがまえ をしておく。
	ひじょうぶくる を じゅんぎする。
	さいがいようでんこんダイヤル が 171
	テーブル の した にかくれます。
2かいめ	きゅうきゅうばこ を もっています。
	たべもの と みず も よういします。
	いちばん ひつようなものは みずです。
	ひとり1日に3Lひつよう。
	1しゅうかん=21L
	じしん が おきたら まわりのひとと たすけあいます。
	じしん が おきるときに うんどうぐつ をはきます。
	Things to prepare : helmet, shoes, whistle, water (じゅんぎするもの: ヘルメット、くつ、ホイッスル、みず)

用意したもの

これまでに学習者から出た「わかったこと」をまとめた一覧表



学習者からこんな日本語ができました

こわい・津波

活動5

ポスターを作成し、発表する

1. ふりがえったことの中から各自2つテーマを選びました。
2. ボランティアと学習者がペアで、A4用紙に選んだテーマについて書きました。
3. グループ毎に模造紙にA4用紙を貼りポスターを作りました。
4. 学習者が、自分の書いたことについて発表しました。



用意したもの

A4用紙、模造紙
マジックペン、のり



次のことばを説明しました

水は1日3リットル必要



ここがポイント

地震に備えるためには本当にたくさんのことを学ぶ必要がありますが、あまり欲張らず、同じことをさまざまな手法で繰り返し学ぶことが定着につながります。

活動6

非常食を食べてみる

1. 非常食（白飯、五目ご飯、乾パン、缶詰パン）を試食しました。
2. 気に入った非常食にシールを貼り、どんな食料を備えたらいいか、考えました。



用意したもの

非常食、シール



学習者からこんな日本語ができました

- これはどこで売ってますか？
- 私はこんなもの見たことないです。
- すすしい水でもできますか。
- これはなに？



こんな日本語を伝えました

ホームセンターやスーパーマーケットで売っています。



次のことばを説明しました

非常食



ここがポイント

「非常食」を知らない人も多いので、実際に食べることで、防災意識も高まります。

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- DVDの映像で何となく理解できたという入門レベルの学習者もあり、様々な日本語レベルが混ざる活動の場合、映像は特に有効だと思う。
- 防災講習は途中で区切りながら行って、随時、学習者の理解状況を確認しながら進めた方が良かった。
- 防災講習のレベルが日本人向けで、学習者には難しかった。
- 講師との事前の打合せで、もっと内容を整理して少なくする話し合いをするべきだった。
- 全体のテーマ自体をもっと絞った方が良かった。
- プロジェクターの事前確認では映像のチェックしかしていなかったが、実際には音声の出力に問題があった。事前確認は音声確認も重要である。
- 学習者向けにワークシートを作成し、それに沿って進めることで、指示が伝わりやすかった。
- 「ポスターにまとめる」とはどういうものを作るのか口頭説明だけでは分かりづらかった。作成例などを見せた方が良かったと思う。
- ボランティア同士のチームワークが良かった。



大切だと思ったこと

日頃から地域リソースや学習者のニーズを把握して、効果的な活動につなげること。

8 地震に備える 活動案

テーマ/目標	地震に備える/ 自分と家族の命を守るために		
テーマ決めの経緯	教室担当者2名の話し合いにより決めた。		
活動場所	安城市文化センター	安城市文化センター	安城市文化センター
協力者	—	あいち防災リーダー	—

1日目：9月8日(木) 10：00～11：30 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1（30分） 地震について映像で知る	DVD パソコン スクリーン プロジェク ター ワークシート	1. 初めての学習者がいたらアイスブレイク（自己紹介） 2. DVDを視聴しながら分かったことをメモする。 3. ボランティアと一緒に新しく覚えた言葉や文をメモする。
活動2（30分） 地震について文字や地図で知る	安城市ハザードマップ(やさしい日本語版 & 英語版)	1. ハザードマップから分かったことをメモする。 2. ボランティアと一緒にハザードマップで各自の避難場所を探し、避難所名などを書き込む。
確認1（30分）	模造紙(2つ切り) 付箋	1. 今日の活動をふりかえり、分かったことをまとめ、発表する。 2. 分かったことを付箋に書き、模造紙で作った「防災の樹」に貼付ける。

2日目：9月15日(木) 10：00～11：30 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動3（60分） ＜出前講座＞ 地震が来る前にすべき事を知る	DVD スクリーン プロジェク ター ワークシート	1. 「防災の樹」を見ながら1回目のふりかえり。 2. 講師による講習：家具の固定、ガラスにフィルムを貼る、枕元セット、非常用持出袋、備蓄などの用意。 講習を聞きながら分かったことをメモする。 3. 皆で考える：枕元セットに入れるものは？など。 4. 災害伝言ダイヤルを試す。
確認2（30分）	模造紙 （「防災の 木」） 付箋	1. 今日の活動をふりかえり、分かったことをまとめ、発表する。 2. 分かったことを付箋に書き、模造紙で作った「防災の木」に貼付ける。

3日目：9月29日(木) 10：00～11：30 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動4（60分） ふりかえり	写真(過去2回 の様子) 模造紙 マジックペン ワークシート 付箋	1. 「防災の樹」を見ながら、1回目と2回目のふりかえり。 2. ボランティアと学習者がペアで、「地震について」分かったことをまとめて書く。 3. クラス全体をいくつかのグループにわけ、グループ毎に模造紙にポスターを書く。 4. グループ毎に代表者が発表する。 5. 他グループのポスターも見て大切なことに「賛成シール」を貼る。（学習者は2枚シールを持つ）
確認3（30分）	非常食 (飲み物も)	1. 非常食を試食し、良いと思うものに「美味しいシール(仮名)」を貼る。 2. 「防災の樹」とポスターを見ながら、活動全体のふりかえり。

「地震に備える」

私たちの教室はこんなところ

- *場所：安城市文化センター
- *曜日、時間：木曜日、10:00~11:30
- *学習者の国籍：フィリピン、中国、インド、ベトナム、韓国、ペルーなど
- *活動：レベル別のグループレッスンをしている。その他に、月1回 教室全体の交流をはかるためにティータイムも行う。

にほんごひろば

目標

地震が起きるとどうなるかを知り、具体的な備えができるようになる。

準備

- *ハザードマップ、防災DVDの入手
- *防災講習の依頼
- *ボランティア内の打ち合わせ
- *ワークシートの作成
- *プロジェクターなどの使用機器の手配
- *チラシの配布



1日目

イメージをつかむ

素材：ハザードマップ、防災DVD
内容：ハザードマップとDVDを見て、地震が起きるとどうなるかを知る。



行動・体験する

内容：講師をお招きし、防災についての講習を聞く。



地域リソース

パワーポイントで、実際の地震発生後の状況などを見せていただく。

3日目

ふりかえり

教材：1日目と2日目に学習者が「わかったこと」をまとめた一覧表
内容：これまでの内容をふりかえり、次のポスター制作につなげる。



進行役：「皆さんがわかったことをふりかえりましょう」

行動・体験する

素材：ハザードマップ
内容：ハザードマップ上で、自宅と自宅から最寄りの避難所にシールを貼る。



「地図で自分の家がなかなか見つからない!」etc



防災の専門家の非常持ち出し袋の中身を拝見!

ゴミ袋で雨よけマント作り



学びをつたえることができる

内容：ポスター制作&発表!



「避難所」と「避難場所」はどう違う?

ことば・表現を知る

内容：わかったことをボランティアと協力してことばで表現し、書いて発表する。



「液状化はなんですか?」「171?」「ことばがむずかしい」など。

ことば・表現を知る

内容：わかったことをボランティアと協力してことばで表現し、書いて発表する。



「長くつはどうしてダメですか?」「日本の耐震は震度いくつまで大丈夫ですか?」

行動・体験する

内容：非常食を試食し、どんな食料を備えたら良いかを考える。



「水は1人1日3リットル、しかも7日分の備えが必要なんです!」

活動をふりかえって

- *もっとテーマをしばった方が良かった。
- *出張講座は途中で区切り、学習者の理解状況を確認した方が良かった。
- *ワークシートを元にスムーズに進行できた。

今後に向けての担当者コメント

- *日頃から学習者のニーズや地域リソースを把握し、教室内で共有できると良い。
- *防災について、今後も継続的に取り組めるシステムを作れると良い。

9. 家庭の防災

災害に備え自分のできることから始めよう

教室名 : あいち国際プラザにほん語教室
教室開催日 : 火曜日 13:30~15:00
学習者の国籍 : 中国、台湾、韓国 等
レベル : 来日間もない初級から
中・上級まで (大半は初級)

参加学習者 : 14名 (中国5名、台湾3名、韓国3名、フィリピン、フランス、ジンバブエ各1名)
ボランティア : 9名
外部協力者 : 3名 (名古屋市港防災センター、愛知県防災局防災危機管理課)

学習者の状況

最近、地震や台風などの自然災害が頻発しているが、
どうしていいかわからない。

学習者の声

- 自分の国では地震も台風もない。
- 防災訓練をしたことがない。

目 標

災害に備え自分
のできることから始める。

活動の流れ

1日目 : 9月27日(火) 13 : 30~15 : 00 (90分)		
活動 1	60分	名古屋市港防災センター見学
確認 1	30分	体験したこと、学んだことの確認
2日目 : 10月4日(火) 13 : 30~14 : 00 (30分)		
活動 2	30分	防災センター見学の報告 (確認を兼ねた活動)
3日目 : 10月11日(火) 13 : 30~15 : 00 (90分)		
活動 3	20分	自己紹介
活動 4	60分	災害への備えについて話を聞く (県政お届け講座)
確認 2	10分	聞いた話の確認
4日目 : 10月18日(火) 13 : 30~15 : 00 (90分)		
活動 5	30分	避難ルートを確認する
活動 6	40分	非常用持出袋を作ってみよう
確認 3	20分	今日学んだことの確認

事前の準備・下調べ

- 県防災局防災危機管理課において、担当者と県政お届け講座の内容の確認をし、学習者の状況、日本語レベルを伝え、わかりやすい講座を依頼する。
- ボランティア全員で活動案の確認、資料の準備をする。
- 名古屋市防災センター見学のためのイベント保険へ加入する。
- 4日目の活動で使用する、非常用持出袋の内容の検討と、ボランティアが手分けして持ち寄る実際の品物の確認、準備をする。

活動1 名古屋市港防災センター見学

防災センターにおいて

1. 煙避難体験をしました。
2. 地震体験をしました。
3. 3Dシアターで台風・津波の映像体験をしました。



用意したもの

防災センター資料



確認1 体験したこと、学んだことの確認

防災センター会議室において、今日体験したこと、学んだことをボランティアと確認しました。



用意したもの

活動記録用紙



学習者からこんな日本語ができました

- 日本語むずかしい。
- 怖い。
- 疲れた。



次のことばを説明しました

火事だ！・助けて！
非常口・ブレーカー・地震
煙・台風・津波



こんな日本語を伝えました

- 頭を守る。
- 非常口を探す。
- 火事するとき、口を布で覆う。
- 姿勢を低くする。
- 助けを求める。



学習者からこんな日本語ができました

- 地震のとき何をするか、わかった。
- 防災は重要。



ここがポイント

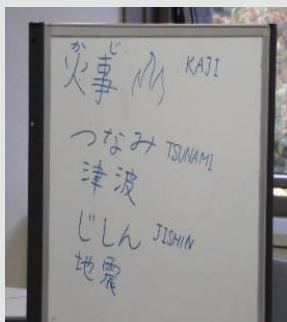
教室外の活動を教室から離れた場所で行う場合は、ふりかえりをする場所の確保が必要です。活動する建物内や近くで自由に使えるフリースペースなどがあるか事前に確認しておきましょう。

活動2

防災センター見学の報告

防災センターへ見学に行った学習者が見学に行けなかった学習者に、見学内容や体験したことを伝えました。

- ・地震の時どうしますか？
- ・火事の時どうしますか？
- ・津波警報が出たらどうしますか？



用意したもの

防災センター資料、
やさしい日本語 防災
用語、活動記録用紙
ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

- 地震、火事、津波はこわい！
- 私の国（韓国）では最近大きな地震があり、日本の専門家から話を聞いています。
- 「助けて！」



こんな日本語を伝えました

- 地震の時、頭を守ります、窓を開けます、ガスを止めます、ブレーカーを落とします。
- 非常口を確認します。

活動3

自己紹介

1. 外部協力者の自己紹介を聞きました。
2. 学習者が自己紹介をしました。
(名前、国籍、母国語で「こんにちは」を言いました。)



学習者からこんな日本語ができました

- はづかしい。
- がんばります。
- よろしくお願いします。



こんな日本語を伝えました

大きな声で、自己紹介してください。



ここがポイント

外部から協力者に来てもらうと、自己紹介をしてみるいい機会になりますね。

活動4 災害への備えについて話を聞く

資料、DVDを使っの講座を聞きました。

- ・日本で過去に起きた地震と南海トラフ地震
⇒地震はいつか必ず起きる
- ・個人でできる防災対策
⇒家具固定、備蓄品、非常用持出袋、避難経路、
連絡手段・・



用意したもの

県政お届け講座資料
防災減災お役立ちガイド

確認2

聞いた話の確認

いつものレベル別の学習グループに分かれて、ボランティアとわかったことやわからなかったことを確認しました。



用意したもの

活動記録用紙

活動5

避難ルートを確認する

1. 各自避難所マップを見て、自分の家・避難場所・避難ルートを確認しました。
2. 家族との連絡手段を考えました。
3. 171災害用伝言ダイヤルの使い方を知りました。



用意したもの

避難所マップ



学習者からこんな日本語ができました

- LINEやインターネットは？
- あらかじめってなに？
- ガイダンスは外国語対応できますか？
- 固定電話って？



次のことばを説明しました

事前の準備・あらかじめ
自助・共助・公助



こんな日本語を伝えました

自分の身は自分で守る。



学習者からこんな日本語ができました

- 家具の固定。
- 171(災害用伝言ダイヤル)に電話する。
- 水の準備は大切。
- 自分の身は自分で守る。



学習者からこんな日本語ができました

(避難所マップで公園に一時避難場所の
マークを見つけて) 公園も避難所？



こんな日本語を伝えました

日頃から近所の人と挨拶をし「助け合
い」ができるような関係を作ることが
大切です。



次のことばを説明しました

助け合い・コミュニティセンター
避難所・学校

活動6 非常用持出袋を作ってみよう

1. 非常用持出袋に入れるものを一緒に考え、実際に
入れてみました。
2. アルミ防寒着を着てみました。
3. 非常用持出袋を背負ってみました。
4. 非常食を試食してみました。



用意したもの

非常用持出袋持出品

確認3 今日学んだことの確認

いつもの学習グループで、各自がボランティアと非常用持出袋に入れたい物を書き出しました。感想を発表し、ふりかえりシートに覚えた言葉や文、思ったことを記入しました。



用意したもの

持出品リスト
活動記録用紙
シート



学習者からこんな日本語ができました

- アルミポンチョは暖かい。
- 非常食、おいしい。
- 旅行用洗顔料セットは？
- 歯ブラシ、石けんは？
- 通帳は？



次のことばを説明しました

非常用持出袋・カイロ・充電器
健康保険証・コピー・懐中時計
非常用持出袋・持出品・懐中電灯
外国人登録証などのID・パスポート
携帯電話用充電器・簡易トイレ



学習者からこんな日本語ができました

たくさんあります。
(非常用持出袋に入れたいもの)



こんな日本語を伝えました

- 3日分の食べ物を備蓄しておいて。
- 薬はいりませんか？
- 赤ちゃんはいいますか？
- メガネはいりませんか？

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- 自分の国では地震や台風を経験したことがない学習者もいた。今回の防災センターでの疑似体験、県政お届け講座でのDVDを使った学習、非常用持出袋の実物を準備したことは、災害を体験したことのない学習者にもわかりやすく、良かったと思う。
- 今回の活動では、学習者が全日程に参加できなくても、参加して良かったと思ってもらえるよう、一回ごとにテーマを分けて活動を組み立てた。準備は大変だったが、学習者には喜んでもらえたと思う。
- 特に活動1と活動6の学習者参加型の活動は、レクチャー型活動より学習者の発話も多く、印象に残ったようだった。
- 県政お届け講座の担当者には、資料を特別にコンパクトにまとめていただき、やさしい日本語で、項目ごとにDVDを止めて解説、質疑応答の時間をとっていただくなど特別にご配慮をいただき、大変わかりやすい講座となった。
- プラザにほん語教室に通う学習者は、他の曜日の教室も受講している学習者が多いので、他教室と内容が重複しないよう調整できれば良かったと思った。



大切だと思ったこと

- 学習者に興味を持って参加してもらえるようなテーマを選ぶことが何よりも大切だと思った。今回は熊本地震、東北、北海道を襲った台風の後であり、プログラム終了直後には鳥取でも地震があり、学習者の関心も高く、印象に残る学習になったと思う。
- 協力者との事前の打ち合わせ、ボランティア全員で活動内容を確認し、打ち合わせを綿密に行うことは、活動を円滑に進めるうえで重要だと思う。

9 家庭の防災 活動案

テーマ／目標	家庭の防災 災害に備え自分ができることから始めよう！ ①避難所の把握。②非常持出品の用意。③家族との連絡方法。		
テーマ決めの経緯	最近災害（異常気象、地震等）が頻発しているので、各自備える事を学ぶ		
活動場所	港防災センター	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ
協力者	港防災センター	愛知県防災局 防災危機管理課	—

1日目：9月27日(火) 13：00～15：00 (120分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1（60分） 災害について見て、 学んで、体験する	各国語対応の資料 やさしい災害用語 カメラ 学習者の保険加入	1. 地震体験室で震度7を体験する 2. 伊勢湾台風を知る 3. 火災発生時の煙避難訓練を体験する
活動2（30分） 体験することで防災への 意識を高める	クリップボード 筆記具 書き込みシート	1. 防災センターで体験したことをメモする 2. 自分の身の守り方を知る
確認1（30分） ふりかえり	—	1. 体験したことでわかったことを話す 2. メモした言葉を確認する

2日目：10月11日(火) 13：30～15：00 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動3（60分） 防災危機管理の立場から 自分ができる防災を知る	やさしい災害用語 書き込みシート	1. 学習者の自己紹介 2. 防災危機管理課の人の話を聞く 3. わからないこと、気になったことをメモする
活動4（10分）	—	1. メモをもとに管理課の人に質問する 2. 質問と回答を記録する
確認2（20分） ふりかえり	—	1. メモしたことの確認をする 2. 講座を聞いて自分ができる防災、減災は何かを話す

3日目：10月18日(火) 13：30～15：00 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動5（30分） 災害時に自分の住んでい る所の避難所がどこなの か確認する	名古屋市各区の 避難所マップ(学習 者の住所確認) 災害用伝言板の使 い方(英、中、韓)	1. 地図を見て自分の家、避難所を知る 2. 避難所までの経路を考える 3. 災害時の家族との連絡方法を知る 4. 災害伝言ダイヤル(171)
活動6（30分） 非常用持出袋の中身を考 える	非常持出袋 必需品リスト 必需品リストカード ホイッスル 懐中電灯 非常食 書き込みシート	1. 非常用持出袋に入れるものを一緒に考える (リストの中から何が必要か) 2. 実際に非常用持出袋に入れてみる 3. 各自選んだ非常用持出品についてなぜそれを選択したか 話す 4. 必要なものはどこで買えるか、いくらくらいか
確認3（30分） ふりかえり	—	今回の学習で得たことを話し合う



家庭の防災



災害に備え自分でできることから始めよう！

最近地震、台風が多いけど
どうしたらいいの？
防災訓練？したことがない
わたしの国には
地震も台風もない

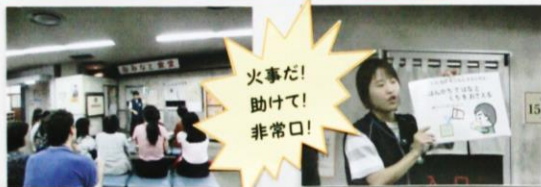


あいち国際プラザにほんご教室 火曜日クラス

場所： あいち国際プラザ
教室開催日： 毎週火曜日 13:30～15:00
学習者の国籍：中国(5名)、台湾(3名)、韓国(3名)、
フィリピン、ネパール、フランス、ジンバブエ(各1名)
来日間もない初級から中上級まで(大半は初級)

1日目 (90分)

名古屋市港防災センターへ行きました



火事だ！
助けて！
非常口！



煙避難体験

地震体験

台風、津波映像体験

- ・にほん語むずかしい！
- ・怖い！
- ・疲れたあ！
- ・地震の時刻をすかさずわかった。
- ・防災は重要！

2日目 (30分)

防災センターの体験を話しました



- ・地震、火事、津波はこわい！
- ・私の国(韓国)で最近大きな地震がありました。日本の専門家から話を聞いています。

《確認しました》

火事の時

- 非常口を確認する
- 口を布で覆う
- 姿勢を低くする
- 助けを求める

地震の時

- 頭を守ります
- 窓を開けます
- ガスを止めます
- ブレーカーを落とします

4日目 (90分)

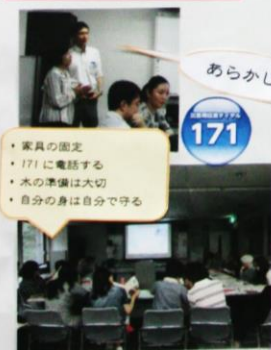
避難所の確認をしました



公園も避難所？

3日目 (90分)

県政お届け講座



あらかじめ

171

- ・家具の固定
- ・171に電話する
- ・木の準備は大切
- ・自分の身は自分で守る

《講座内容》

- 地震はいつか必ず起きる！
→自分の身は自分で守る！
- 個人でできる防災対策
→事前の準備 今やろう！

非常用持出袋を作りました



《他に持っていきたいものは？》

- ・旅行用洗面セット
- ・歯ブラシ
- ・石けん
- ・通紙
- ・下着

アルミボンチも
めったかーい！

《実践を終えて（ボランティアの感想）》

- 一回だけの参加でもわかる活動は良かったと思う
- 学習者が関心を持って聴けるテーマを選ぶことは大切。
- 学習者参加型の活動は勉強も多く印象に残ったと思う。
- 協力者との事前打ち合わせで、分かり易い講座になった。



10. 地震から身を守ろう

教室名 : あいち国際プラザにほん語教室
教室開催日 : 金曜日 13:30~15:00
学習者の国籍 : 台湾、中国、韓国、フィリピン、
インドネシア
レベル : 初級から上級

参加学習者 : 5名 (台湾1名、中国1名、韓国1名、フィリピン1名、インドネシア1名)
ボランティア : 6名
外部協力者 : 1名 (名古屋市港防災センター)

学習者の状況

全員地震国出身で、
自国において地震
体験をしている。

学習者の声

名古屋は安全か？

目 標

地震から身を守ること
ができる。

活動の流れ

1日目 : 9月30日(金) 12 : 20~14 : 30 (130分)		
活動 1	60分	地震を知る
活動 2	20分	地震体験をする
活動 3	30分	煙避難を体験する
確認 1	20分	今日学んだことをふりかえる
2日目 : 10月7日(金) 13 : 30~15 : 00 (90分)		
活動 4	15分	1日目の復習
活動 5	20分	地震が起きたらどうする？
活動 6	15分	寝ている場所は安全か？
活動 7	20分	家具の固定と非常持出品
確認 2	20分	今日学んだことをふりかえる
3日目 : 10月14日(金) 13 : 30~15 : 00 (90分)		
活動 8	20分	避難場所を確認する
確認 3	55分	わかったことをまとめる
活動 9	15分	学んだことを発表する

事前の準備・下調べ

- 防災センターと打合せをする。(内容・ふりかえり場所の確保 等)。
- 必要な物(ハザードマップ、家具固定用具、非常持出品 等)を取り寄せる。
- テキストを作成する。

活動1

地震を知る

防災センターの「地震を知る」コーナーを見学し、パネルや家具の固定サンプルを見ながら、ボランティアと一緒に地震について学びました。



用意したもの

ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

地震はこわい。



次のことばを説明しました

家具の固定・南海トラフ・プレート

活動2

地震体験をする

地震体験室において、専門家から地震が起きたらどうすればいいかを聞き、震度7の地震を2グループに分かれて体験しました。



学習者からこんな日本語ができました

大きい揺れでこわかった。



こんな日本語を伝えました

- 手・鞆・本で頭を守る。
- 机の下にもぐる。



次のことばを説明しました

119番

活動3

煙避難を体験する

1. 煙避難体験室において、火事が起きたときの避難姿勢や避難方法を学びました。
2. 伊勢湾台風のことが分かるパネルや3D映像体験で、台風や地震の時の津波の恐ろしさを学びました。



確認1 今日学んだことをふりかえる

今日の体験で何を学んだかを話し合い、ワークシートに記入しました。

用意したもの

ワークシート



活動4

1日目の復習

地震とは何か、地震の起きるメカニズムなど、パネルやテキストを使って1日目の復習をしました。



用意したもの

パネル
テキスト



学習者からこんな日本語ができました

- 地震体験できてとても良かった。
- 知らないことをたくさん学んだ。



こんな日本語を伝えました

- 体を低くする。
- 煙を吸ってはいけない。



次のことばを説明しました

避難場所・消火器



学習者からこんな日本語ができました

- 火事の時は119番に電話する。
- 体を低くする。
- 煙を吸ってはいけない。



学習者からこんな日本語ができました

- 新しいことを勉強した。
- 難しい言葉がある。



ここがポイント

ボランティア丸となって入念な準備をしたことは本当に頭が下がります！
一方、持続的な活動のためには無理なく気楽にできることも大切。すべてを提供せず、学習者自身に考えてもらうことも大切です。

活動5

地震が起きたらどうする？

屋内にいるときと、屋外にいるときを想定して、地震が起きた時にどうするか、また、揺れが収まったらどうするかを考えました。



用意したもの

パネル



学習者からこんな日本語ができました

- 机の下にもぐる。
- ドアをあける。



こんな日本語を伝えました

エンジンを止め、キーをつけたままにする。



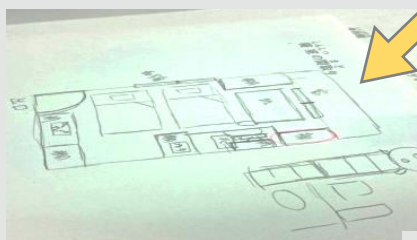
次のことばを説明しました

- ガスを止める。
- ブレーカーをおとす。
- 非常口
- 情報を得る。

活動6

寝ている場所は安全か？

自分の寝室の間取りを書いて、地震が起きたときに倒れてくるものがないかなど、安全かどうかを考えました。



用意したもの

ワークシート



学習者からこんな日本語ができました

物がいっぱいあり、危ない。



こんな日本語を伝えました

- ガラス窓の近くが危ない。
- ドアを開ける。

活動7

家具の固定と非常持出品

1. 家具の固定用具を実際に手に取り、使い方を学びました。
2. ボランティアが用意した非常持出品を見て、どんなものを用意するといいか学ぶとともに、非常食(缶詰パン)の試食をしました。



用意したもの

家具の固定用具
非常持出品



学習者からこんな日本語ができました

非常持ち出しと備蓄品とは違う。



次のことばを説明しました

家具の固定・非常持出品・突っ張り棒
スイッチボール(ブレーカー自動遮断装置)

確認2

今日学んだことをふりかえる

地震について覚えたことば、地震に備えて実行したいことなど、今日学んだことをふりかえりました。



学習者からこんな日本語ができました

- 突っ張り棒
- (非常食は)味がいろいろです。
- 防災用品は認識しました。
- 非常用品を準備する。
- ロープ準備しての方がいいですか。

活動8

避難場所を確認する

1. 住んでいる所のハザードマップの見方を学び、各自の避難場所を確認しました。
2. 寝室の間取りをみて、安全確認をしました。



用意したもの

ハザードマップ
寝室の間取り



学習者からこんな日本語ができました

町内会へ入らないとハザード
マップは貰えないの？



こんな日本語を伝えました

- 自分の寝室は安全ですか？
- 避難場所を確認しよう。



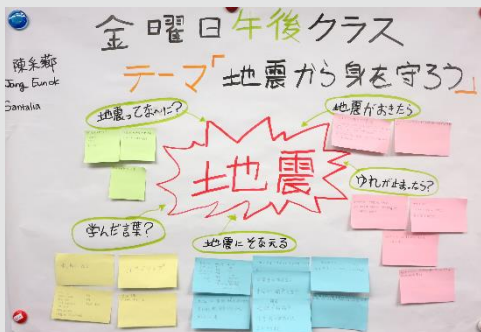
次のことばを説明しました

ハザードマップ

確認3

わかったことをまとめる

- 地震について学んだことを5項目（①地震ってなに？
②地震がおきたら ③ゆれがおさまったら ④地震に
そなえる ⑤学んだことば）に分けて付箋に書きました。
- 各自で書いた付箋を5項目に分けて、模造紙に貼り付
けてまとめました。



用意したもの

付箋、模造紙、
サインペン



学習者からこんな日本語ができました

- うちの横の公園は1番大きい避難場所。
- ヘルメット家にはない。
- ブレーカーは？（→落とす）
ガスは？（→閉める）
（↑ことばの確認）

活動9

学んだことを発表する

地震について学んだ事を、今回のプログラムに参加し
ていない学習者やボランティアの前で一人ずつ発表し
ました。



学習者からこんな日本語ができました

- とりあえず絶対お水(が必要)です。
- いちばんinterest is 「火事だ」。
（火事のときに「火事だ！」と言って
危険を知らせるということが、とても
印象に残ったようです。）

実践を終えて～ボランティアの感想 & 大切だと思ったこと

- あらかじめ、学習者からテーマを選んでもらっていたため、興味を持って取り組んでもらえた。
- 命を守るという大切なテーマなので、学習者が学んだことを今後活かしてもらえと思う。
- 参加者が少なかったのが残念。できるだけ多くの学習者に参加してもらいたい。



大切だと思ったこと

学習者がどれだけ理解し、自分のものとして発話できるかということ。
そのためにはボランティアの役割がとても大きい。

10 地震から身を守ろう 活動案

テーマ／目標	地震から身を守ることができるようになる。		
テーマ決めの経緯	日本は地震の多い国なので、日頃から地震に備え自分の身を守る事を知るのは、とても、大切である。 そこで身を守る術を知りその為に必要な日本語を学ぶ事をねらいとした。 (テーマは、学習者によるアンケートにより選んだ。)		
活動場所	港防災センター	あいち国際プラザ	あいち国際プラザ
協力者	港防災センター	—	—

1日目：9月30日(金) 13：30～15：00 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動1（10分） 地震とは何か？	—	1. 地震を知るコーナーで過去の震災の映像・パネルを見る。 2. 映像・パネルから何が分かったか、どう感じたかを話し合う。
活動2（60分） 地震を体験する	—	地震体験室において、震度7クラスの地震を実際体験し、その時の初期行動について学び、どうすべきかを考える。
活動3（10分）	—	各学習者の国の地震状況を話す。
確認1（10分） ふりかえり	—	地震を実際に体験して、地震とは何か感じたことを話し合い、理解を深める。

2日目：10月7日(金) 13：30～15：00 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動4（20分） 地震とは何か？	過去の地震の写真・パネル	1. 1日目の復習(地震とは何か、1日目に体験と映像で学習したことを踏まえ話し合う。) 2. 地震について得た知識の再確認
活動5（30分） 地震に備える (地震が起きたら街、部屋の中はどうか?)	場所のイラスト 部屋の間取り等	屋外(例えば、スーパー・ビルの中・地下街)にいた時、屋内にいた時、地震が起きたらどうなるかをシミュレーションする。
活動6（20分） 地震に備える (地震後の余震と備え)	家具の固定用品	1. もし学習者が〇〇にいたら、どうすべきかを考えて話し合う。 2. 地震への備え(家具の固定、安全な寝室)についても話し合う。
確認2（20分） ふりかえり	—	1. 地震について分かったことを話し合う。 2. 地震が起きた時、身を守るにはどうすべきかを話し合う。

3日目：10月14日(金) 13：30～15：00 (90分)

活動のねらい（時間）	準備・教材	活動方法（対話と協働）
活動7（20分） ふりかえり 地震から身を守るにはどうしたらよいか？	イラスト	1. 1日目、2日目の活動で分かったことを話し合う。 2. 身を守る為に何をしたら良いか、状況別に話し合う。
活動8（30分）	模造紙 マジック ワークシート 付箋	地震が起きた時、身を守る為にすべき事をボランティアと相談しながら決め、ポスターに、地震から身を守るにはどうしたらよいかをいくつかの項目にまとめる。
活動9（20分）	—	グループ内で発表し合い、ポスターに書かれたことについて質疑応答する。
確認3（20分）	—	活動全体をふりかえり、どうしたら地震から身を守ることが出来るかを話し合う。

地震から身を守ろう!!

【目標】地震が起きた時、自分で身を守ることが出来るようになる
国際プラザ金曜午後クラスとは？

場所:国際プラザ2F研修室 日時:毎週金曜日午後1:30～3:00

学習者:中国・韓国・台湾・フィリピン・インドネシア・スペイン・ロシア
日本語レベルは入門者から上級者N1受験希望者まで

ボランティア:男性3女性15, 学習者に寄り添い学習者の希望に添った教室

1日目 地震ってなあ～に？

2016/9/30 13:00～14:30 名古屋市港防災センター

活動1

職員さんの説明



分かりやすかった



活動2

震度7の体験

こわかった～!



活動3

本当の津波のよう

2日目 地震が起きたらどうする？

2016/10/7 13:30～15:00 国際プラザ2F研修室

活動4,5



活動6 寝室の間取りを



書きました



活動7 家具の固定・非常食の試食

3日目 ふりかえり

2016/10/14 13:30～15:00 国際プラザ2F研修室

活動8

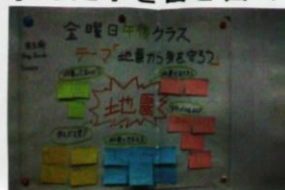
ハザードマップをみて

避難場所を確認しました



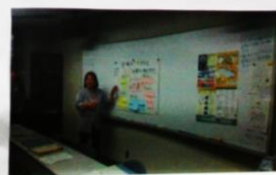
活動9 地震について

学んだ事を書き留めました



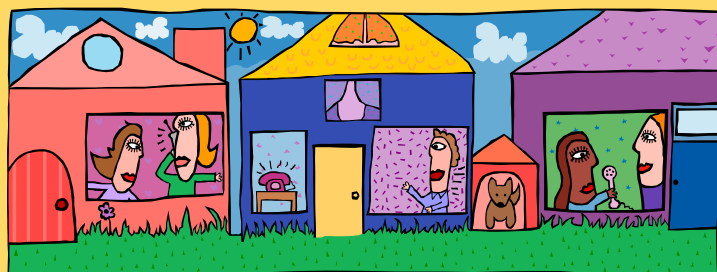
活動10

皆の前で発表しました



教室名	実践活動テーマ	ページ	教室開催日時	開催場所
あいち国際プラザ にほん語教室	家庭の防災	66	火曜日 13:30～15:00	名古屋市中区
	地震から身を守ろう	74	金曜日 13:30～15:00	
	地震について知ろう	52	金曜日 19:00～20:30	
	ごみの分別について学ぼう	6	土曜日 10:30～12:00	
	食品表示の見方を学ぼう	22	土曜日 14:00～15:30	
あかさたな 日本語教室	人を助ける	38	木曜日 10:30～12:00	名古屋市中区
刈谷市国際交流協会 日本語教室	母国にいる親しい人に 郵便物を送ろう	14	木曜日 10:00～11:30 土曜日 19:00～20:30 日曜日 10:00～11:30	刈谷市
江南市国際交流協会 「ワイワイ日本語教室」	自転車のルールを知ろう	30	月・金 10:30～11:30 月～金 13:00～14:00	江南市
日本語教育 リソースルーム	AEDを使えるようになろう	46	—	名古屋市中区
にほんごひろば	地震に備える	58	木曜日 10:00～11:30	安城市

參考情報



愛知県の外国人住民

●愛知県は全国で2番目

2016年6月末現在、日本に住む外国人の数は2,307,388人。

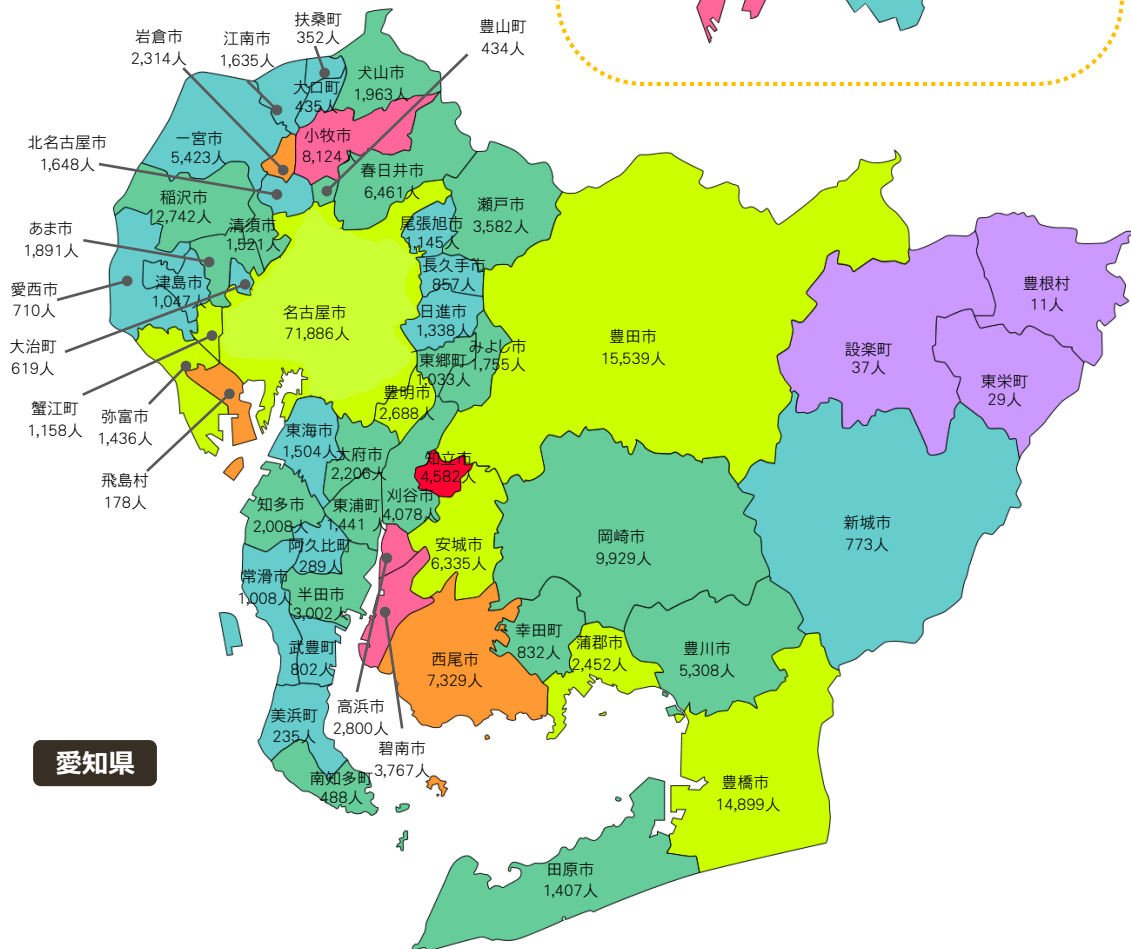
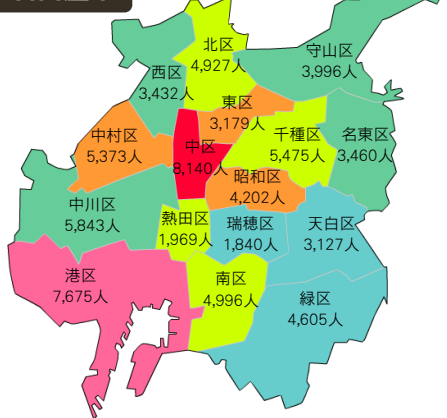
愛知県の外国人数は217,465人で、東京都(483,538人)に次いで全国2位です。総人口に対する外国人比率は2.90%で、国全体の1.82%を大きく上回っています。

また、愛知県内でも市区町村によって外国人住民数や人口に占める割合に違いがあります。愛知県では名古屋市中区が9.91%と、最も割合が高くなっています。自分の住む地域や日本語教室のある地域はどのくらいの外国人住民が住み、その割合はどのくらいになっているのか、他の地域と比較してみてください。

外国人住民の総人口比

- 6%以上
- 5%以上
- 4%以上
- 3%以上
- 2%以上
- 1%以上
- 1%未満

名古屋市



出典

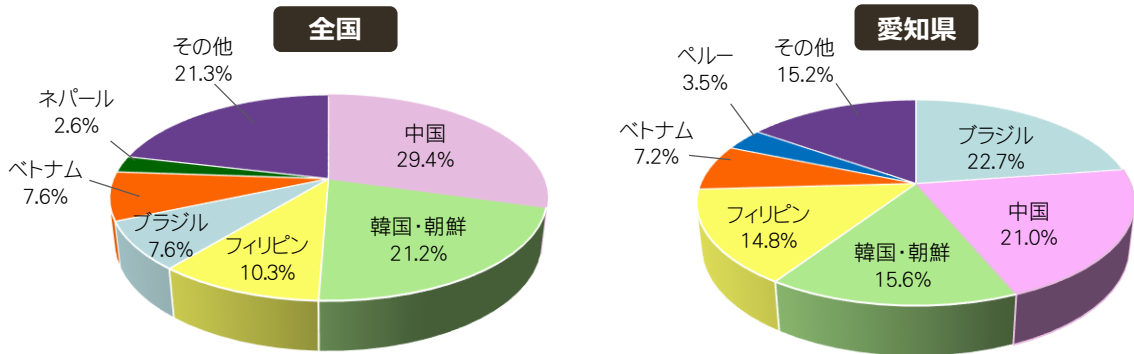
愛知県内市区町村外国人住民数及び総人口比率:愛知県多文化共生推進室ウェブサイト(2016年6月末現在)

名古屋市区別外国人住民数:名古屋市ウェブサイト(2016年11月1日現在)

全国総人口比率:総務省 人口推計(2016年6月1日現在)、法務省 在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表(2016年6月末)

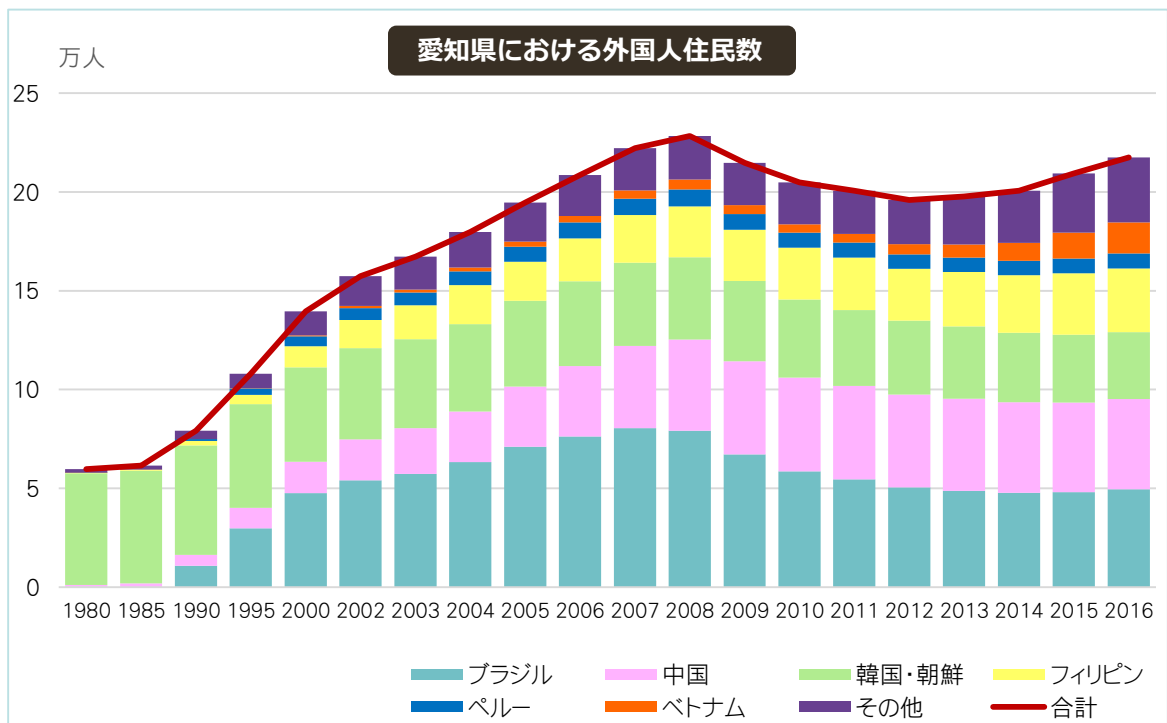
●国籍はブラジルが最多

外国人住民の特徴を国籍別にみると、日本全国では多い順に、中国、韓国・朝鮮、フィリピン、ブラジルとなっていますが、愛知県ではブラジルが最も多く、次いで中国、韓国・朝鮮、フィリピンとなっています。



●外国人住民数はピーク時に迫る人数へ

外国人住民数の推移を見てみると、リーマンショックのあった2008年をピークに徐々に減少していましたが、2013年から再び増加に転じ、2016年にはピーク時に迫る数になっています。国籍別にみると、減る傾向にあったブラジルは2015年から再度増加に転じています。フィリピンの増加は続いている一方、韓国・朝鮮は減る傾向にあります。また、著しい増加傾向の国として、ベトナムが4,388人(2011年)から15,655人(2016年)と5年で3.5倍以上、ネパールが2,126人(2011年)から5,037人(2016年)と5年で2倍以上、増えています。



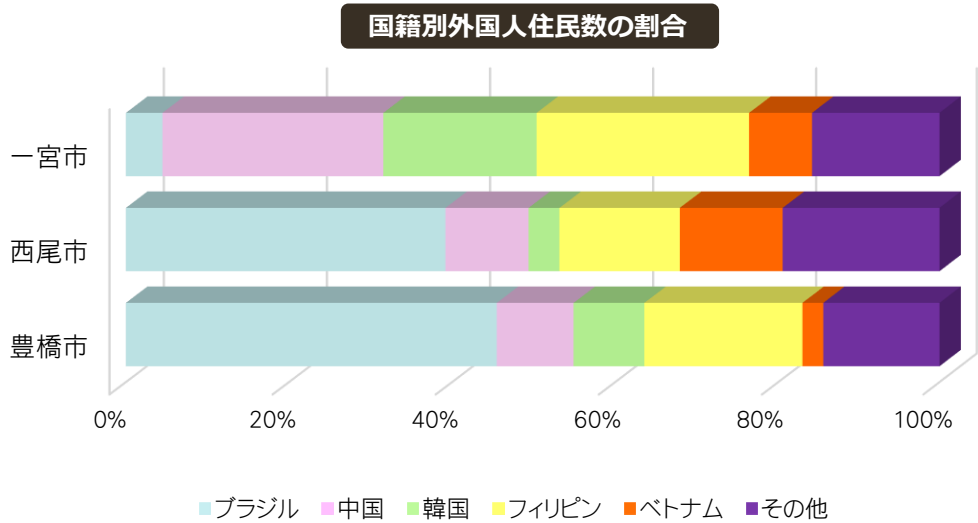
※ 2016年は6月末現在の数字です。

※ 2015年12月末在留外国人統計(法務省)から、「韓国・朝鮮」に係る表記が、「韓国」、「朝鮮」と区別し表記されることとなりましたが、推移がわかりやすいよう本表では引き続き「韓国・朝鮮」として記載しています(同統計「韓国」及び「朝鮮」の合計)。

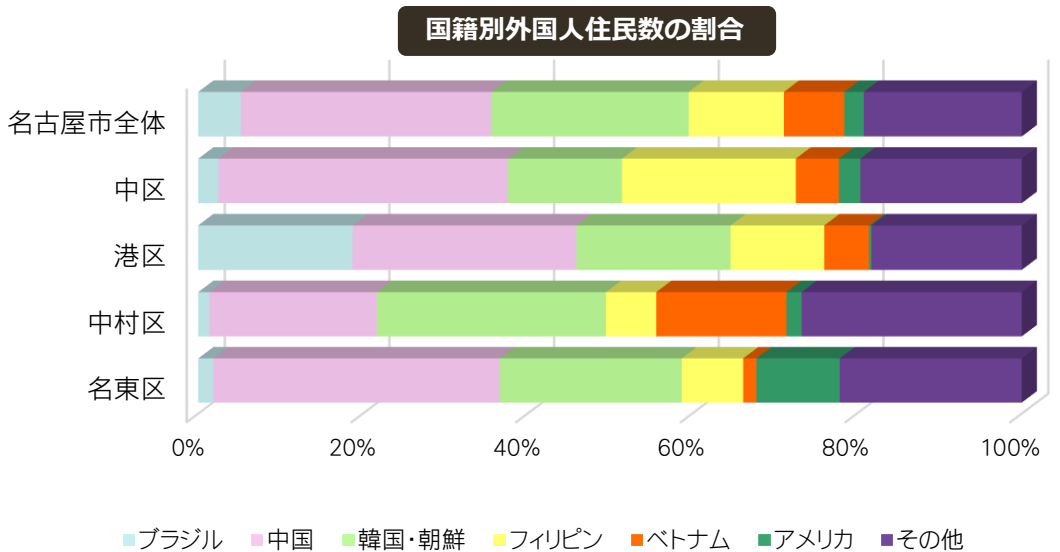
※ 2012年の調査から、「出入国管理及び難民認定法」が改正されたことにより、統計の対象範囲が異なることとなったため、単純に比較することはできません。

●地域によって違う国籍別外国人の割合

地域によって、外国人住民の国籍別割合も異なります。たとえば、一宮市はフィリピン人の割合、西尾市はベトナム人の割合が比較的高いことが特徴です。また、豊橋市ではブラジル人の割合が50%以上となっています。市町村それぞれの状況を知っておくと、割合が多い外国人の母語で教室のちらしを作るなど、活動に活かすことができます。



名古屋市内でも、区によって違いがみられます。たとえば、名古屋市の中で外国人が1番多い中区は中国人やフィリピン人が多く、港区は比較的ブラジル人も多く住んでいます。また、他の区と比べると中村区はベトナム人、名東区はアメリカ人が多いことが特徴です。



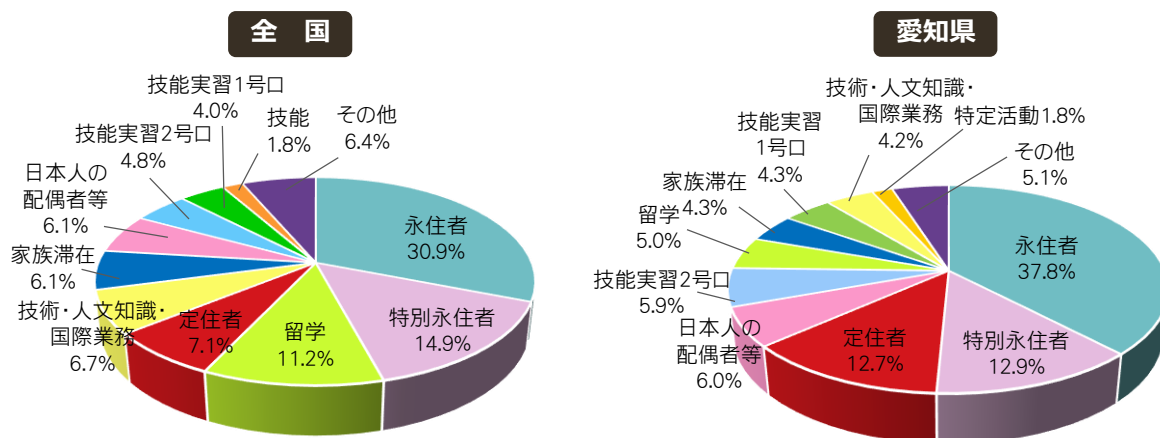
愛知県のウェブサイトには54市町村の国籍別外国人数、人口比順位のデータが載っています。
 (URL : <http://www.pref.aichi.jp/soshiki/tabunka/gaikokuzinjuminsu-h28-6.html>)
 また、自治体によっては在留資格別のデータを公表しているところもありますので、さらに詳細な外国人住民の状況を把握することもできます。

出典
 愛知県内市町村外国人住民数及び総人口比率:愛知県多文化共生推進室ウェブサイト(2016年6月末現在)
 名古屋市区別外国人住民数:名古屋市ウェブサイト(2016年11月1日現在)

●在留資格別では永住者、特別永住者が多い

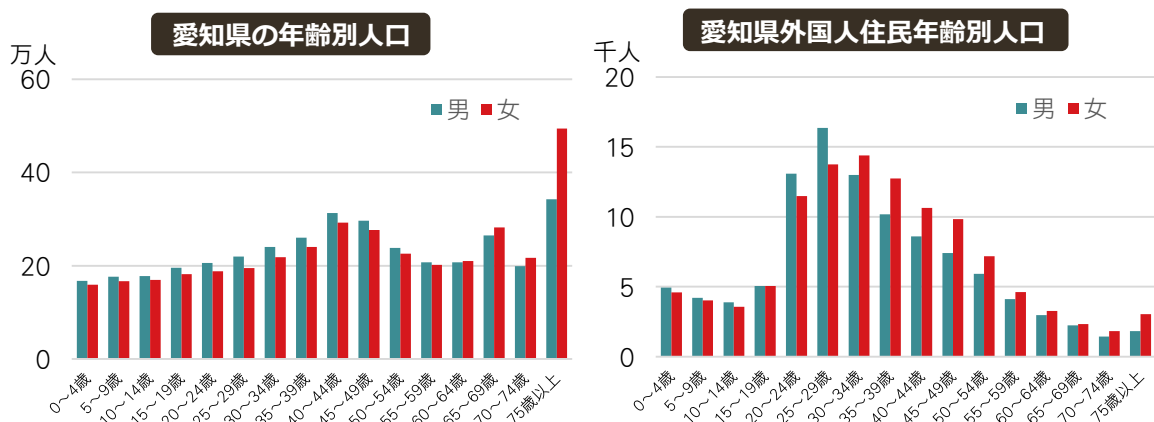
在留資格には、①活動に制限のない身分に基づくもの（永住者、特別永住者、日本人の配偶者等、永住者の配偶者等、定住者）と、②留学など23種の特定の活動に基づくものがあります。

愛知県の外国人の特徴を在留資格別でみると、全国と比べて永住者と定住者の割合が多く、活動に制限のない在留資格の人の割合が全体の約70%を占めています。また、留学の割合が少ないことがわかります。



●年齢別では20歳代～40歳代が多い

在留外国人の特徴を年齢別にみると、20歳代から40歳代が多く、少子高齢化が進む日本人の人口構成と比べると大きな差があります。



出典

法務省 在留外国人統計(旧登録外国人統計)統計表(2016年6月末)
愛知県の年齢別人口:愛知県統計課 ウェブサイト(2016年10月1日現在)

行動・体験型の活動に役立つサイトの一覧です。やってみたい活動の参考となるものを探したり、サイトを参考に活動のテーマを決めたりするのに活用してください。

- 『「使える」日本語を学ぶ！～行動・体験型の教室活動をつくろう～』((公財)愛知県国際交流協会)
<http://www2.aia.pref.aichi.jp/resource/j/2News/manual.html>
文化庁が作成した『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案について』を基に、行動・体験型の活動事例をまとめたものです。日本語教室のあり方やお役立ち情報も盛り込まれています。ぜひご活用ください!
- 『「使える」日本語を学ぶ！活動事例集2015』((公財)愛知県国際交流協会)
<http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/nihongo/jirei2016.html>
平成27年度に実施した行動・体験型プログラム研修の中で、参加者が実践した「行動・体験型日本語教室活動」の内容を実践者自身がまとめたものです。様々な事例が載っていますので、テーマ選びなどの参考にしてください。
- 『「生活者としての外国人」のための日本語教育の標準的なカリキュラム案 教材例集』(文化庁)
http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/nihongo_curriculum/index_3.html
文化庁の標準的なカリキュラム案を活用するために作成されたものです。教材の参考になるだけでなく、活動のつくり方、進め方の参考になります。教材はワードファイルでダウンロードできますので、地域や学習者に合わせて手を加えることができます。
- 『標準的なカリキュラム案で扱う生活上の行為の事例』一覧の他言語版(文化庁)
http://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kyoiku/nihongo_curriculum/index_2.html
『「生活者としての外国人」のための日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック』(文化庁2011.1発行)にある「生活上の行為の一覧」が23言語に翻訳されたものがダウンロードできます。学習者と一緒にテーマを選択するときに役立ちます。
- 『日本語教育コンテンツ共有システム(NEWS)』(文化庁)
<http://www.nihongo-ews.jp/>
文化庁の地域日本語教育事業受託団体が作成した教材やそれ以外にも役立つ教材を集めて掲載しているサイトです。テーマなどをキーワードにして検索することができます。
- 『日本語教室リスト』((公財)愛知県国際交流協会)
<http://www2.aia.pref.aichi.jp/resource/j/class/classtop.html>
(公財)愛知県国際交流協会が実施した調査に基づき、愛知県内の日本語教室情報を掲載しています。学習者の居住地や移動に合わせて近くにある日本語教室を紹介することができます。



**2016年度文化庁委託
「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
「使える」日本語を学ぶ！**

活動事例集2016

2017年2月

発行：公益財団法人 愛知県国際交流協会

〒460-0001

名古屋市中区三の丸2-6-1

TEL:052-961-8746 FAX:052-961-8045

Eメール:koryu@aia.pref.aichi.jp

URL:<http://www2.aia.pref.aichi.jp>

印刷：安藤印刷株式会社